

顔をし、「上京」の差別語を容認しない地方からも常に畏敬の念が持たれる。

毛沢東は北京大学で一介の図書館助理員に過ぎなかつただけに、高学歴への反発の裏返し「名門学府情結」^{コンプレックス}が強く、甥・遠新には北京大学か清華大学への入学を勧めた¹⁵⁸⁾。江沢民時代後期の政治局常務委員会は胡錦濤・朱鎔基等の「清華閥」が目立った¹⁵⁹⁾が、五輪聖火の主会場外の最終走者^{ランナー}は北京大学学長・許智宏であり、副学長経験者・季羨林の別格扱いも朝野の「北大情結」^{コンプレックス}と関係が有ろう。意味深長な事に、首都地区中継3日目に胡錦濤と同じ1942年生まれ^{リレー}の許学長が走った終点は、8カ国聯軍の略奪・放火で破壊された円明園の遺跡に在る北京101中学である。其の前身は1946-49年の晋察冀辺区（山西・察哈爾・河北3省に跨る革命根拠地）聯合中学で、共産党が戦争中に創設し建国後に北京に移転させた唯一の中学として特別の由緒が有る。

毛遠新や劉少奇の息子を始め要人の子弟が多く入り¹⁶⁰⁾、卒業生の李鉄映（鄧小平の前妻・金維映と元党中央統一戦線部長・李維漢との間の子）は鄧小平～江沢民時代の政治局委員（1987-2002）、曾慶紅（元内務部長・曾山の息子）は胡錦濤時代の政治局常務委員（02-07）・国家副主席（03-08）を務めた。2000年北京五輪招致委員会主席・伍紹祖（1988年に国防科学技術工業委員会政治委員〔少将〕から国家体育委員会主任に転任、2004年まで国家体育総局局長〔官庁再編に伴う前職の改称〕、中国五輪委員会主席を歴任）の他に、今大会組織委員長・劉淇（政治局委員・北京市党委書記）も他ならぬ当校の出身なので、首都の中央の「中控」主導が次第に強まる中での「太子党」の揺籠への帰着は、次世代への期待を込めた火種の伝送・集約とも言えよう。因みに、北京師範大学附属中学2部から改名した1955年に、校名を揮毫した文豪・郭沫若は101の寓意を、「百尺竿頭、更進一步」（百尺竿頭に一步を進む）と講釈した。

毛より2ヵ月前に逝った筆頭元帥・朱徳の遺骨も八宝山公墓第1室に納まったが、番号「101」¹⁶¹⁾は奇しくも唯一遺骨が国内に安置できぬ元帥・林彪の「101（首長）」の暗号名¹⁶²⁾と同じであり、下2桁が一緒の301医院と共に「天字第1号」への憧憬の変種^{コンプレックス}の「01情結」を窺わせる。中南海の警備を担当する中央警衛団は設立の1953年に総参謀部から「総字001」の番号を与えられ、50年代末から「3747部隊」に変更し、64年前後から「8341」を使用し始めた。総参謀部所管の某軍用倉庫の廃止後の転用と言われるこの番号は、後に「御林軍」（〔天子の宮城を守る〕禁衛軍）の代名詞と成った。71年の林彪事件後に保秘強化と全軍部隊番号の5桁化の為「57001」に改められたが、間もなく元の番号に戻り、毛の死去直後は又「57003」に変更した（2000年以降は「61889」）¹⁶³⁾。林彪一味の党・国家への反逆の裏付けとして政変構想^{メモ}手記が発覚し、題の「“571工程”紀要」（「571」は同じwuqiyiと読む「武起義」の語呂合わせで、武装蜂起の意）と重なる事が忌み嫌われたのだ¹⁶⁴⁾。短命の「57001」の上2桁の由来は毛の「5.7指示」（軍隊の農業・副業生産の促進に関する1966年5月7日付の林彪宛ての手紙）かも知れないし、建国時の毛の数え歳（満56歳の直前）でもあるが、初代の「001」への回帰

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

を以て再び「1番情結」^{コンプレックス}の根強さを示した。

「8341」は毛の死後に呪縛解除の様に抹消され正式名称の「中央警衛団」に取って代られたが、鄧小平時代の末期に巷間で実しやかに噂された其の「言霊神話」^{ことだま}は、「表徴の帝国」の様々な表徴の深層を照射する契機に成り得る。無作為に振られた可能性の高い「3747」も歴史の座標から対応を探せば、抗日戦争勃発の1937年と陝西北部転戦の1947年の組み合わせとえて来る。「文革」初頭に毛沢東が天安門城楼で文革祝賀集会の群衆百万人を接見した1966年「8.18」の恰度^{ちやうど}19年前、毛と党中央機関が黄河の岸辺で国民党の大軍に追い詰められ壊滅の危機に直面した¹⁶⁵。建国の際に毛・周は「居安思危」（治に居て乱を忘れず）意識を以て、抗日戦歌「義勇軍行進曲」を代（暫定）国歌とする提案に賛同した¹⁶⁶が、「中華民族到了最危險的時候」（中華民族に最大の危機が迫る）という「最後の吼声」（最後の雄叫び）は、足して中国人の最後の厄年の84に等しい37+47の組み合わせの様にも読み取れる。

伝説的な中国製育毛・発毛剤「101」は林彪の禿げを思い起こせば皮肉の巡り合いも感じるが、80年代後半に留学先の日本でその「生発水」を転売し一儲けした上海出身の留学生・周正毅は、後に株式・不動産等の投資で巨富を築き上海「首富」（最大の富豪）の声価を手に入れた。2002年に米経済誌『フォーブス』の中国長者番付で11位に躍り出た直後に転落し、「上海閥」の凋落と連動するかの如く経済犯罪で03年9月、07年1月に2度逮捕され、其々3年、16年の懲役に処され42-61歳の人生を監獄で過ごすことに成った。内縁（未結婚登録〔入籍〕）の妻・毛玉萍（上海地産控^{ホールディング}股有限公司総経理〔社長〕）も株価操作等の罪を問われて、06年1月に香港で懲役3年半が言い渡された（夫妻が02年に香港の上場会社2社を買収した際に約20億香港ドルの不正融資を行ったとして、中国銀行副会長兼香港支店〔有限公司〕総裁・劉金宝が04年2月に解任され、翌年8月に長春市中級人民法院〔地方裁判所〕で執行猶予2年付きの死刑判決を受けた）が、1994年に上海の繁華街で開き後に系列店舗^{チェーン}舗を展開した居酒屋「阿毛炖品」（「炖品」は鳥獸内臓煮込み等）が、俱に上海出身の2人の本土に於ける大成功の起点であった。

巡り巡って、「101 首長」林彪の邸宅も領袖の姓が付く北京西四北大街前毛家湾1号である。林彪「自爆」後は中共中央文献研究室・中央文献出版社の所在地に転用されたが、第8期8中総会（1959年8月2日-16日）開催中の毛・江夫妻が宿泊した江西・廬山河東路180号（番地名）も、昔の蒋介石・宋美齡夫妻の避暑用の「美廬」別荘であった。1930年代に英国人女性が宋美齡に贈与したこの贅沢な施設の「美」の名は、廬山への礼賛と元首夫人の所有の表示の両義が考えられるが、1960年から1年掛けて其の近くに建設された毛専用の別の別荘は「廬林1号」と名付けられた¹⁶⁷。森林の中の園林に因んだ名の「林」は、奇しくも廬山会議後に失脚の彭徳懐に代って国防部長に就任した林彪の姓である。住居の地名に「毛家」が有る林と毛の相剋相生を現わすかの如く、1970年8月23日-9月6日の廬山会議（第9期2中総会）で統

帥と副統帥が激突し決裂に向った。

毛が内戦時代の最大の敵の別荘を当然の様に享受したのは征服欲にも因った事であろうが、陰気臭い林彪旧居の新たな主が中共中央文献研究室・中央文献出版社に成ったのは、「残酷闘争・無情打撃」と権謀術数・陰謀詭計で織り成した党史の熾烈峻厳・複雑怪奇な裏・闇に似合う。「美廬」の180号から「廬林」の1号への飛躍も全てを凌駕する「帝王の表徴」と見て取れるが、中南海の毛沢東邸の名称の変遷もこの文脈で面白い発見が有る。「文革」後に豊沢園内の菊香書屋から引越したのは恰も経済停滞・文化破壊の帰趨を暗示し、新居の「遊泳池」（室内プールを改造した由来に因る別称）は政治的な風波の試練を水泳に譬えた彼の情念に通じる。逝去の先々月の唐山大地震が北京を直撃した翌日に耐震性のより高い「202」棟に移された¹⁶⁸⁾が、林彪の暗号名「101」の倍に当るのは屋上屋の君臨の暗号と解釈すれば意味深長である。

1969年10月18日、林彪が蘇州から総参謀長・黄永勝に電話で「戦備を強化し敵の急襲に備える緊急指示」を下し、当夜に副総参謀長・閻仲川の業務上の判断で「林副主席指示（第1号命令）」として全軍に通達されたが、武漢滞在中の毛は19日に電話記録で報告を受けると苛立って自らマッチで其の紙を燃やした。林の指令は軍事的に合理性が有り毛も其の内容と実施には異論が無かったが、異様な反応は勝手に大軍を動かした独断と個人名を冠す「第1号命令」の不遜に対する激昂であった¹⁶⁹⁾。毛の猜疑・排斥から逃れようと異国の沙漠に墜落・変死する破目に成った林の悲劇は、中国語の「姓名」と「性命」（生命）の同音（xingming）の妙味と隠し味を思わせる。西洋の「罪の文化」と日本の「恥の文化」と異なり、且つ両者に跨る中国の「名の文化」の位置と特質にも目を向けさせられる。

北京地区聖火中継^{リレー}2日目の八達嶺の万里の長城－地壇行路^{コース}の終点は、海軍政治部文芸工作団副団長の歌手・宋祖英少将（1966－）で飾った。五輪閉幕式で伊太利のドミンゴと「愛の炎」の二重唱を熱演した彼女は、湖南省の苗族出身らしい風情の持ち主で江沢民時代の寵児として知られるが、次期党首の最有力候補・習近平が娶った歌手・彭麗媛（1962－）も解放軍総政治部歌舞団の少将で、建国初代領袖の「第1夫人」と同じ山東の出身である。これらの連環は「解放軍情結」や「山東情結」をも連想させるが、北京出身の「第1夫人」を持つ胡錦濤には独特の「北京情結」と「西北情結」が見られる。彼も温家宝や習近平・李克強と同様に北京の最高学府で思想・人格の骨格が形成され、且つ甘肅の「大熔炉」で試練を受けた。何よりも首都という政治・権力の中心の磁場に長く居て、温和・伶俐の「南人」も重厚な帝王的な貫禄の「北相」が付いて来る。生地にせよ精神的な揺籠にせよ、領袖・首脳は北京から生まれるという新しい伝統が出来つつある。

1989年4月15日、胡耀邦元総書記（73）の急逝で天安門事件の導火線が点けられたが、前日は中国初の「人口日」として社会発展の目立たぬ道標であった。改革・開放元年（1979）に始まった厳格な独りっ子政策で産児制限が強力に進められたが、国家統計局の推計でこの日で

本土の総人口が11億に達した。「中国12億人口日」の1995年2月15日は、其の年の元宵節（旧暦1月15日）及び元宵節の性格の一部に合う西洋伝来の「情人節」（バレンタイン・デー）の翌日に当るが、0時過ぎに12億番目の国民とされる男の子・趙旭が北京産婦人科病院で生まれ、空かさず⁺国務委員兼国家計画生育委員会主任・彭珮雲に抱き上げられ報道写真機の閃光を浴びた¹⁷⁰。更に10年近く後の2005年1月6日0時2分、同病院で13億人目とされる男の子・張亦弛が誕生し、国家人口・計画生育委員会主任・張維慶が病院を訪れ名誉証書と贈り物を渡した。節目の基準は0時直後の純粋な自然分娩に由る最初の嬰兒と定められたが、同じ病院で体重まで酷似（3700g^ㄉ、3660g^ㄉ）の同性の子が都合よく出産され、13億人目は北京でこの世に遣って来ると数日前から報道機関に断言されたのは、如何にも胡散臭くて一部の民間世論の失笑や不審、不平を招いた。

2004年の本土（帰還済みの香港・澳門を含め「内地」¹⁷¹）の人口は、推計に拠ると毎日平均して2.08万人純増し、年末に12億9988万人に達したので、年明けの6日が大台突破の日として割り出されたわけである¹⁷²。単純計算で4.15秒毎に1人増加（嬰兒出生は1.58秒）の速度¹⁷³を考えれば、0時過ぎの最初の自然分娩は北京以外で行われた方が遙かに自然的である。況して12億人目も13億人目も同じ病院で生まれたのは、犯罪の絡線^{からくり}を暴く松本清張の推理小説『十万分の一の偶然』（1981）に因んで言えなら、10億分の1にも成らない超低確率の上に立つ作為と受け止めざるを得ない。何故雲南、青海、黒龍江省等の地域の辺鄙な村がその舞台に成り得ないのか、と機会均等の原理や人権・地域平等の理念に基づく疑問の声が多く上がった。新華社（国家通信社）主管の『瞭望新聞週刊』同年第2号でも即時に大きく取り上げ、選定・報道の信憑性を疑う上海の外資系企業の複数の従業員の辛辣な異論を報じ、上海の大学や市社会科学院（政府系「智库」^{シンクタンク}）の人口・社会発展戦略・報道問題の専門家の中立的な所見を添えた。

学者と当局の説明の共通項として、13億人目は精密に確定し難い概数や符号に過ぎず、北京婦人産科病院が連続して当たったのは儀式的の為の方便であり、人口の大台更新を告げる儀式は警鐘を鳴らす象徴的な意義が有る、と言う。巨視的な概念・曖昧な数値と具体的な特定の嬰兒との間の矛盾を指摘し、同時に出生した1群の1人として国家から大台の代表に選ばれたという限定的な注釈を勧めた学者もいる¹⁷⁴が、現実の世界を反映しつつも微妙にずれる疑似空間の文化的な寓意が興味を引く。復旦大学人口研究所副（准）教授・任遠は同誌の取材に対して、国家の人口発展戦略が数量と共に素質や構造にも留意し、社会が人口の発展に均等な機会を提供する事の重要性を強調した。曰く、同じ時刻に貧しい町で呱呱^{ゝゝ}の声を上げた新生児は名前が世に知られる事も無いが、報道機関が狙いを定めた北京で生まれた嬰兒は衆人矚目の焦点と成り、人口大台の符号として歴史に残る故に展示上の必要から重視され、当人が幸運に恵まれ家庭も満足する可能性が高い。曰く、多くの子供は北京出身のお陰で「符号資源」（表徴として

の価値)を含む多くの資源(資本)を得る機会が多く、大都会の充実した物質的・文化的な支えに因り順調に成長し易いが、田舎の診療所や出稼ぎ労働者の「黒戸」(無戸籍)子女は環境の辺鄙や悪劣の所為で社会に忘れられがちである¹⁷⁵⁾。

趙旭の母親・李印花(年齢未詳)は出産直後の12億人目の認定式に於いて、子供の名は「旭日東昇」(東の空に朝日が昇る)の「旭」だと披露した¹⁷⁶⁾。勢いが盛んな様を形容するこの成句から連想させられるのは、領袖賛歌の冒頭の「東方紅, 太陽昇」(東の空が赤く染まり, 太陽が昇る)だ。続いて「中国出了個毛沢東」(中国に毛沢東が現れた)と謳うが、11億人台の最終日の3/4世紀前の1930年1月5日、彼の「救世の巨星」は林彪宛ての書簡で革命の将来に対する悲観論を宥めた。後に「星星之火, 可以燎原」(小さな火花でも広野を焼き尽くす)との題が付いたこの文は、結びの予言が『毛沢東選集』の中でも有数な名文として知られる。間も無く到来する中国革命の高潮の形容として、東の彼方で光芒を四方に放ちながら海から昇ろうとする朝日を高山の頂上に立って眺望する様であり、母親の胎内でせわしく動き成熟を迎えようとする嬰兒の様であると言った比喻は、巡り巡って12億人目の符号・趙旭の名前と符合する。

「趙」も「百家姓」の中の1番目として謀らずも先導の寓意を帯びるが、任博士の一般論的な「農村・地方=日陰」「首都=日向」の図式に反して、幼時の病弱が改善したものの13億人目誕生の日には熱で寝込んでおり、バス車掌の父と骸炭化工場労働者(出産時と同様)の母の月収合計は貧困層に当る2千元未満で、3人は11平米の家で窮乏の暮らしに甘んじていた¹⁷⁷⁾。もっとも、中国の神話では「三皇」の1人・女媧が丁寧に黄土を捏ねて貴人を作り、数を増やす為に縄で泥を跳ね上げた飛沫が凡人と成ったので、別の意味の大雑把な人間創造で身分の差が先天的に付くのも伝統の宿命かも知れない。「旭」の「九+日」の字形は、堯の時代に一遍に空に現れる10の太陽の中の9つを后羿が射落とした神話を連想させるが、最後の太陽が規則正しく出没するように成ったという魔物退治の「救星」の偉業は、灼熱地獄と不毛・不作に散々苦しめられた民衆の受難の宿命の裏返しでもある。

「百家姓」は当初「国姓」を尊ぶ為に「趙」を頭に据えたが、明の『皇家千家姓』では同じ発想で「朱」が最初に出たが、清の『御姓百家姓』は「孔」が首位に変わった。明王朝を創った洪武帝・朱元璋の後裔と言われる朱鎔基は、巡り巡ってその21歳の誕生日に成立した共和国の20-21世紀に跨る首相と成ったが、彼は生まれる前と10歳の頃に相継いで父親と母親を失った苦境で育ち、玩具を買ってもらった記憶が無いと言う¹⁷⁸⁾。趙旭の誕生後に病院側は家族宿泊可の病室の無料提供や母子への特別看護を施し、生花を盛った籠や亥年に因んだ「吉祥猪」(縁起物の豚[日本流の猪と異なる])の縫い包みを贈った¹⁷⁹⁾が、その優遇措置や甘美な思い出と10年後の親子のほろ苦い境遇との落差が大きい。小学4年生に成った息子は車の玩具を好むと母親は語ったが、記者が玩具の詳細を訊くと「買ったことが有る」とだけ言って言葉が詰まっ

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

た。苦しい家計から1200元（同年の北京市都市住民の平均所得は、全国2番目に高いながら月1665元程度）も捻出して英語と数学五輪^{オリンピック}の塾に通わせた¹⁸⁰のは、中国の親の「望子成龍」（子供が龍〔の様な立派な人間〕に成る）の欲求の現れである。

警察の仕事に憧れた趙旭と両親の窮態依然（「旧態依然」に擬らえた造語）は、「温飽問題」（基本的な衣食の保障）が未だ解決の途上に在った時代の所産として象徴性が高い。奇しくも誕生の日に首都製鉄所の大御所・周冠五の引退で「北京閥」の転落が始まったが、当時同社の鉄合金工場の労働者だった父親・趙彦春は数年後^{リストラ}人員整理に遭い今も臨時工の儘である。対して、「小康（一応の余裕が有る）社会」へ進む中で13億人目の国民に選ばれた嬰兒は、市場経済・国際化の潮流の縮図の様に、父・張彤（37）が中国国際航空会社の空中勤務者（「空勤」。一説は「空警」即ち航空保安官¹⁸¹）、母・藍慧（31）が穀牌（シェル^{オランダ}「和蘭系大手石油・エネルギー企業」）中国有限公司（和蘭系企業）の職員であり、生後13日で父親が法定後見人として最南端の省の海南欣龍公司与結んだ契約に由り、「潔之夢」柔湿面巾（「清潔の夢」ウェットティッシュ）の「代言人」（代弁者。転じて「^{イメージ・キャラクター}形象代言人」）に成り、世界最年少のイメージ・キャラクターの記録として報じられた¹⁸²。

1929年10月24日、87年10月19日の大暴落で米国株式市場の「暗黒の10月」の「^{ジネクス}魔呪」が出来たが、2007年には信用力の低い個人向けの住宅融資問題で起きた夏の欧米発の金融危機が一旦沈静化した後、米・中を始め世界的な株高が「新興国・資源関連銘柄^{バブル}泡沫」の煽りも有って久々の天井に達し又急落した。2006年10月にも米国経済の軟着陸への期待から紐育工業株30種平均株価が連日最高値を更新したが、その月の17日の米国東部夏時間午前7時46分頃、統計上約11秒間で1人が増え続ける米国の総人口が3億を突破した。^{サンフランシスコ}桑港の新聞やペンシルベニア州の放送局等が当地での3億人目の誕生を競って主張し、国勢調査局は身元究明を行わないと表明したが、人口統計学者のウィリアム・フレイは移民増加の傾向とヒスパニック系の高い出生率に基づいて、^{ロサンゼルス}羅府で生まれるラテン系の男の子であろうと予言していた。1915年に1億に達した同国の人口は1967年に2億の大台に届き、『ライフ』誌はジョージア州アトランタ出生の中国系米国人のロバート・ウーが2億人目に当ると報じた¹⁸³。11月20日午前11時前に商務省中央広間に在る「^{ロビー}国勢調査時計」が歴史的な瞬間を告げ、同省長官はこの「画期的な出来事」に就いて祝賀と反省の必要性を述べ、急速な人口増加がこの儘続けば33年後に米国人口は3億に達するので、家族計画科学を真剣に考慮すべきだと語った¹⁸⁴。

北京五輪開催の年に羅府を舞台とする米国の恐怖映画^{ロサンゼルス}*Mutant Vampire Zombies from the Hood!*^{ホラー}の中で、亜細亜系暴力団の親分の名も現実の中で不惑の年を過ぎたあの移民国家の節目の符号と同じロバート・ウーだが、太陽の異変で其処等中の人間が呪術^{ミュータント・ヴァンパイア・フロム・ザ・フッド}に由って^ゾ生き返った死体^ビに変異するという物語の怪奇よりも恐ろしいのは、Wuに当る中国語と思われる「呉」¹⁸⁵の簡略字「吳」の「口+天」の字形に含まれた不気味な黙示である。北宋に銭塘（杭州）の無名の読書

人が作り 441 の名字を取めた啓蒙教材「百家姓」では、時の皇帝の姓である故に首位に出る「趙」と「錢・孫・李・周」の次（「錢」を含む考案者の居住地を中心とする浙江と隣接の江蘇という「呉越」の対も興味深い）、「鄭・王・馮・陳」の前に在る 6 番目に位置する。今や「李・王・張・劉・陳・楊・黄・趙・周」に次ぐ使用人口が 10 番目に多い姓の「呉」は、「口・天」の組み合わせや中国語の「無」との同音に由りこの文脈で人口問題の「天大」（絶大さ）を思わせる。奇しくもかの Robert Wu が誕生した日に米ドル弱体化の懸念から紐育・東京・倫敦で株価が暴落し、巴里・チューリヒでの金の買いの殺到と共に 21 世紀の世界の金融動乱・資源危機を占う激変と成り、^{ベトナム} 越南戦争の泥沼に嵌り込んだ世界 1 の覇権国家の商務長官の喜憂半々の論評の切実な真実味を感じさせた。

その危機感と対策の効果で大台突破は当初の予想より 6 年遅延したが、中国の長年の産児制限も本国の「13 億人口日」と世界の「60 億人の日」を共に約 4 年間遅らせた¹⁸⁶⁾。後者の超大台突破の時間と場所は、1999 年 10 月 12 日午前 0 時 3 分（現地時間。グリニッジ標準時では前日の 22 時 3 分）、新・旧ボスニア・ヘルツェゴビナの首都・サラエボのクリニカルセンター大学病院であった。1 分間で世界中に約 140 人増えている中で其の 3550^名の男の新生児が節目の「地球市民」とされたのは、国連事務総長・アナンの同市訪問に合わせて認定した国連人口基金の思惑に拠る事である¹⁸⁷⁾。サラエボは 1914 年 6 月 28 日の^{オーストリア} 奥地利 = ^{ハンガリー} 匈牙利帝国皇太子夫妻暗殺事件で第 1 次世界大戦の引火点に成り、ユーゴスラビア崩壊（1991）後のボスニア・ヘルツェゴビナ紛争（92-95）で千人以上の子供が犠牲した。「欧州の火薬庫」の大病院で 7 時間も掛かった出産¹⁸⁸⁾ は、戦争と平和の葛藤や暴力と革命の交錯が続いた 20 世紀の遺伝子の^{パフォーマンス} 登場の様にも見える。

ピューリッツァー賞を 3 度（1983, 88 年 [国際報道部門], 2002 年 [評論部門]）獲ったトーマス・フリードマンは、99 年 4 月刊行の『レクサスとオリーブの木』の中で「紛争防止の黄金の M 型^{アーチ}拱理論」を提唱した。マクドナルドを有する任意の 2 国は其々に当該企業が出来て以来互いに戦争をした事が無いという現象に着目し、ある国の経済が、マクドナルドの店舗^チ経営の系列^ー展開^ンを支え得るほど大勢の中流階級が現れる水準まで発展すると、その国の国民はもはや戦争をしたがらず、寧ろハンバーガーを求めて列に並ぶ方を選ぶ、とかの米国の^{ジャーナリスト} 媒体寄稿者は言うが、初版が世に出た途端「マクドナルドの国」同士は交戦せぬとの主張は根底から現実の挑戦を受けた。米国を主体とする 19 の北大西洋条約機構（NATO）加盟国がコソボからセルビア人勢力を一掃する為、3 月 22 日-6 月 11 日にマクドナルドの支店が有るセルビアに対して執拗で猛烈な爆撃を実施し、標的は旧ユーゴ共産主義者同盟中央委員会が置かれて今の与党・社会党本部が入っている高層建築物（4 月 23 日）に及び、ベオグラードの中国大使館も「誤爆」で死者が出て（5 月 7 日）中国人の愛国意識・嫌米感情を刺激した。

著者は批判者の否定論に対して「NATO は国ではない」「コソボ紛争は本物の戦争ではない」

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

と反駁し、元々「黄金のM型拱理論」は内戦には適用しないし未来を予言するものではないと強調した。曰く、送電系統と経済を封鎖されたベオグラードの市民が直ちに戦争の終結を要求した動きは、マクドナルドを再び開店させる方がコソボを再び占領するよりも遥かに望ましいことを意味するので、今の1つの例外は一般的な原理の強力さを証明したに過ぎず、戦争よりもハンバーガーを求める「マクドナルドの国」の群衆心理に関する自説は、「これを無視する指導者や国民は、自分が思ったよりも遥かに高い代償を払うことに成る」と補足すればいい¹⁸⁹⁾。その前も1995年8月30日-9月20日にNATO15カ国がボスニア領内のセルビア軍に対して空爆を加えたが、例の即成洋風軽食大手企業の国際展開は未だボスニア・ヘルツェゴビナに及んでいないので、店舗の半分近くが集中している本拠・米国で考案された所謂「マクドナルド理論」の妨げには成らない。旧ユーゴの内に人種構成が特に複雑で内戦が長く最後に独立が承認されたボスニア・ヘルツェゴビナは、旧ユーゴの中で唯一マクドナルドと高速道路が無い¹⁹⁰⁾点も吟味に値する。

フリードマンはトヨタの高級乗用車と土地・文化・民族の象徴たる木を鍵に「地球化の読解」（副題）をし、国境を越えた新技術の集結と従来の伝統的な価値への拘泥の対立・統一から世紀の交の世界を描き出した。高速道路の未整備はLexus^{レクサス}の「凌志」（音訳の「雷克薩斯」[Leikesasi]と並行する中国語の意訳）には程遠く、オリーブの枝・葉が西洋で意味する平和・充実¹⁹¹⁾という凌雲の志^{のろし}が絶えぬこの地域では遂行し難い。千年紀の分水嶺に於いてマクドナルドを擁しない欧州国家は他にアルバニアとアルメニアしか無かったが、アルバニアは中国が「文革」中に欧州での唯一の盟友とし又1978, 79年に経済援助、交流を打ち切った国だ。改革・開放が10年続いた後90年にマクドナルドは深圳で中国上陸の橋頭堡を作り92年に北京に進出したが、革命の「出口」（輸出）よりも外食の「進口」（輸入）を望む共産党政権の新思考と中国人固有の価値観は、子供の養育よりも自分の生活を優先する傾向の台頭で人口「爆増」を抑制する効果が有る。アルバニア人勢力がユーゴ軍との戦闘を続けた99年コソボ紛争と95年ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争では、「紛争防止の黄金のM型拱理論」の圏外の非「マクドナルドの国」と「マクドナルドの国」の例外が現れたが、選りに拠って「地球化」未達成の隅で新千年の前夜に60億人目の「地球村住民」が生まれたとする演出は、人口増加と食糧・資源減少がもたらす人間安全保障の問題を人々に考えさせる仕掛けと成った。

13億人目の中国（本土）国民の母親の出産時の31歳は、「晩婚・晩育」（遅く結婚し遅く生育する）推奨の国策にも合致する。60億人目の「世界公民」（地球市民を指す中国語）の母親の同29歳は、中国・日本で結婚適齢期の上限の目安と思われがちの30歳の節目の直前に当たる微妙な年齢だ。随筆家・白石公子の『もう29才、まだ29才——今どきの“女ごころ”はややこしい』（1990）¹⁹²⁾と共に連想されるのは、「男過四十一枝花、女過三十豆腐渣」（男は40過ぎが華、女は30過ぎがオカラ）という中国の俗諺である。大晦日に因んだ「年越し蕎麦」の

比喩で30歳以上の「売れ残り」を揶揄・自嘲する日本語と同じく、「賞味期限」で女性の価値を決める侮蔑的な響きは否めないが、「吃青春飯」（青春で飯を食う。若い内に若さに頼って目一杯得をする）の甘えを戒め、中年以降も通用する能力や品格の向上を促す警句とも思える。香港と似て平均寿命の世界最高水準に反して性交頻度も出産率も世界の最下位に近い日本¹⁹³⁾では、恋愛・結婚・出産に消極的な「草食系」乃至「装飾系」（本稿筆者の造語）の増加が目に見え、子供を作りたがらない同世代の中・韓の都会人に通じる「産まん族」（woman^{ウーマン}の発音に引っ掛けた同造語）には、其の29歳の出産に対する「人類大家庭」の代表の祝福は、開発途上国の人口安定化と表裏一体の先進国・地域の少子化解消の課題を突き付けている。

60億人目の新生児の両親のヤスミンコ・ネビッチ夫妻（当時の職業不詳）は、同市の西北の町・ピソコに住むモスLEM人である¹⁹⁴⁾。子供がイスラム教徒の普通の男子名・アドナンと名付けられたのは、アナン事務総長に因んだ節^{ふし}も推測される¹⁹⁵⁾。アナンの出身国・ガーナの首都・アクラは東経・西経0度に近く、等時帯も子午線通過地域のグリニッジ標準時と同一であり、その第7代国連事務総長就任は途上国群の台頭と国際基準普及の「全地球化」の表徴とも取れる。在任中（1997年1月-2006年12月）の世界、中国、米国の人口の60億、13億、3億人突破は、社会の発展に必要で且つ過不足が其の障害を成す人口の制御の難題の不変性・緊急性を容赦無く示した。人口の増加は社会の活性化と経済発展に繋がる反面、地球環境・持続成長の限界に因る21世紀の人類の生存を脅かす諸刃の剣とも成っている。

50億、60人目の「地球村民」の旧ユーゴ所産と「黄金のM型拱理論」の相関^{アーチ}

「文明の衝突」の時限爆弾は千年紀祝賀の余韻が冷めなかった内に2001年「9.11」恐怖襲撃^{テロ}で炸裂したが、巡り巡って国連本部の在る紐育で凶暴な大規模無差別殺傷・破壊を敢行したのはイスラム原理主義者で、人類初の総力戦の導火線と成った塊=匈帝位継承者暗殺の地・サラエボは欧州で最もイスラム的な都市だ。犯人はボスニア出身のセルビア人で南スラブ人の解放を唱える「青年ボスニア党」の構成員だったが、1ヵ月後の塊=匈対セルビア宣戦を惹き起した民族主義情緒の暴走は数年、数十年前に伏線が敷かれていた。1875年のボスニア蜂起で触発された露土（露西亜帝国対オスマン帝国）戦争が終結後の78年、塊=匈帝国はボスニア・ヘルツェゴビナのオスマン帝国主権下の施政権を獲得し、1908年10月6日に更に両地域の併合を宣言した。列強競合の強引さで刺激されたセルビアの大セルビア主義や汎スラブ主義が大戦の火種と成ったが、この様に世紀の0年代の流れは往々にして100年間の趨勢を示唆するものである。

同じ2003年春の米・英聯軍に由る「反恐怖主義^{テロリズム}」の大義名分の下でのイラク侵攻に対して、中国発の非典型肺炎（重症急性呼吸器症候群^{SARS}）に対する退治は「硝煙無き戦争」と呼ばれたが、

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

21世紀0年代の世界を一再ならず襲った金融・経済危機もその形容に当て嵌まる処が多い。「60億人の日」10周年から2週間経った2009年10月26日にマクドナルドは氷島^{アイスランド}からの撤退を発表し、既存の3店舗を閉鎖し将来戻る計画は無いという決断の理由として挙げられたのは、非常に厳しい経済環境と北極圏の端に在る人口僅少（30万）の島国として営業上の特殊な複雑さである。「金融立国」の目論見の破綻に因る通貨急落で材料輸入の原価^{コスト}が倍増し、仮に堪え難い負担を消費者へ転嫁する為に最小限に近い2割程の値上げに踏み切れば、ビッグマックの価格が世界最高の瑞西（1個5.75^{ドル} [米ドル、以下同]）を大きく上回る状況に成った¹⁹⁶）。

氷島の同年の1人当りGDP（37991^{ドル}）は世界第19位（国際通貨基金 [IMF] 発表、以下、特に断る処以外は同じ）で、米国（45934^{ドル}、8位）や日本（39740^{ドル}、17位）に比べても余り遜色が無いが、前年の53108^{ドル}に比べて28.5%減少し（順位は一気に10位も下がり）、史上最高の07年の64548^{ドル}（3位）からの下落率は41.2%にも及んだ。面積が北海道と四国の合計（9.73万平方^{キロ}）より少し大きい（10.3万）同国は、水産物が数十年も輸出総額の3/4強を占め続け漁業以外に余り産業が無く食糧・燃料も自足できないが、高金利で外部遊資を釣って融資で稼いだり海外の資産を買い漁ったりする投資的な自転車操業に乗り出した末、「金漁」（中国語の「漁・余」の同音 [yu] に引っかけ、金余りを利用して暴利を漁ることを形容する造語）の^も猛者・^も亡者に化した。市場原理の特大大津波に由る「100年に1度」の世界金融危機の打撃で急激な^{ホット・マネー}流出に見舞われ、実業・虚業が俱に空洞化に陥った結果として08年10月に3大銀行が国有化され「虚星」が地に墜ちた。

2000年の30824^{ドル}は3-5位の日本、^{スイス}瑞西・米国（36811^{ドル}、34802^{ドル}、34774^{ドル}）に肉迫した6位だが、高速膨脹の起点と成った03年の水準（37744^{ドル}、7位）へ逆戻りを余儀無くされた09年の氷島は、皮肉にもボスニア・ヘルツェゴビナ（4365^{ドル}、90位）やアルバニア（3837^{ドル}、100位）と同様に、マクドナルドに見限られて^{グローバル}地球化経済の辺境・離島に追い遣られた。資産の毀損で「上流」も「中流」へと衰退し乃至「下流」まで凋落しかねないが、アルバニアと中国（[香港・澳門・台湾を含まず、以下同] 3735^{ドル}、101位）の比隣（世界銀行の統計でも103、105位と接近 [アンゴラを挟む]）、及び米国中央情報局（CIA）調べのボスニア・ヘルツェゴビナと中国（101、103位）のほぼ比肩（間に在るのはエクサルバルト）が興味深い（国際通貨基金の統計に見当らぬ澳門は世界銀行と米国中央情報局の調べでは、其々28位の34570^{ドル}と21位の38911^{ドル}と成っており、前者は24位の氷島[38034^{ドル}]より低く、後者は22位の同国[38587^{ドル}]より高く、国際通貨基金の番付では18位の^{カナダ}加奈陀[39669^{ドル}]の次に該当すると推測される。世界銀行・CIAの調査結果と整合性を考慮するなら、本稿で記したIMFの順位は19位の氷島から全て1位繰り下げるのが妥当であろうが、その調整で中国は102、103、105番目という範囲に落ち着く）。

アルバニアと中央欧亜に位置する（中国では亜細亜域内とされる）旧ソ連加盟国（91年8月

23日に主権宣言、翌月23日に独立)のアルメニアの間にも、面積の近似(2.87万、2.98万平方^キ)とマクドナルドの未出店という隣接・共通点がある。英語で俱にAで始まる国名が日本語の50音順で隣り合う両国の連環に暗合して、1人当たりGDPが長年の「欧州最貧」・アルバニアにも大きく劣るアルメニア(2615^{ドル}, 115位)は、アルメニア住民が約3/4を占め92年1月7日に独立を宣言したナゴルノ・カラバフ(4400平方^キ)の帰属を巡って、同地域が旧ソ連時代に自治州として所属していたアゼルバイジャン(91年8月30日に独立)と交戦し(94年停戦)、又アルメニア人に対する大規模の迫害・虐殺事件(1894-96, 1915-16)が起因で、国土の3%が欧州に在る隣国の土耳其古との間に100年を超えた怨念や歴史認識を巡る対立が続いているが、この様に非「マクドナルドの国」は経済の落后と紛争の危険の複合性格が多いかも知れない。

欧州のもう1つのマクドナルド未踏の「処女地」であるボスニア・ヘルツェゴビナは、氷島の半分に当たる5.1万平方^キの面積がその東/北部と接壤するクロアチアの5.65万平方^キに近い。世界順位でも隣り合う(123, 124位)2国は10億人単位の世界人口大台更新の通過儀礼に於いて、言わば宝籤連番1等の的中の様な奇跡的な連続登場を演じた。各大陸の内では2回続いて開催しないという平和の盛典・五輪の暗黙の均衡法則とは違って、国連が認定した50億人目の「地球村民」は1987年7月11日19時23分47秒(紐育の夏季時間)、奇しくも同じ旧ユーゴの一角のクロアチアの首都の病院で産声を上げた。ザグレブが「世界50億人の日」の地に選ばれた理由は国際大学生競技大会開催中であるが、電気技師の父と看護婦の母の間に生まれたマテイ(男の子、3600^{ズラ})の処に、第5代国連事務総長・クエヤル(ペルー人)が駆け付けて人口増加の抑制の為に国際協力を呼び掛けた¹⁹⁷⁾。

7月11日は国連人口基金の提案で1990年に「世界人口日」に成ったが、翌年6月25日にスロベニア・クロアチアはユーゴからの独立を宣言し2日後に「10日戦争」が起きた。スロベニアはセルビア主導でスロベニア人が司令官と成る連邦軍の侵攻に勝ち分離・独立の趨勢を強め、前年「社会主義」を国名から外したマケドニア共和国も鼓舞されて翌々月の9月8日に連邦から離脱した。更に92年3月のボスニア・ヘルツェゴビナの独立宣言を契機に、独立反対派のセルビア人と賛成派のクロアチア人・ボシュニャク人(ムスリム人)の対立が翌月に武力衝突に発展した。「7つの隣国、6つの共和国、5つの民族、4つの言語、3つの宗教、2つの文字に由り構成される1つの国」と言う様な、ユーゴスラビア社会主義連邦共和国の統治の困難は分解後の「民族の浄化」征伐でも顕れたが、世界の50億人目・60億人目ともその厄介な土地で生まれた事は世紀末らしい多難の宿命を思わせる。

1988年の国家長期成長戦略の策定で民間の知恵袋として中核的な役割を担った経済学者・胡鞍鋼は、新世紀初頭の「地域と発展：西部開発新戦略」の政策提言で国内の地域間の経済格差に警鐘を鳴らし、旧ユーゴの国・地域間の最大格差が65年の5倍から88年の7.5倍に上がつ

た事に連邦解体の要因を求めた¹⁹⁸⁾。2極化の典型として例示された最も富裕なスロベニア共和国と最も貧困なコソボ自治州との格差は、世紀末の紛争の10年後に更に8.1倍まで拡大した(2009年の1人当たりGDPは24111^{ドル}対2984^{ドル} [世界第31, 108位])。毛沢東は『易経・繫辭下』の「窮則変, 変則通」(窮すれば則ち^{すなわ}変じ, 変ずれば則ち通じ)を敷衍して、「窮則思変」(困窮すれば変革を思う)という命題を「大躍進」の最中の1958年4月に打ち出した。1/3世紀後に連邦内で経済の貧弱が突出したマケドニアが独立を追随したのもその原理で説明できるが、経済水準が高いスロベニア・クロアチアが逸早く「主人」に離縁を言い渡したのは逆に考えさせられる。

スロベニアは主体民族が人口の9割を占め旧ユーゴ構成国の中の最も高い民族の均一性も独立志向の根底を成し、窮乏度が近似の近隣同士であるマケドニア・コソボと一緒に「近隣窮乏」の共倒れを避ける意志も有ったろう。念願の完全主権を勝ち取ったスロベニアは1999年に先進国の目安とされる1人当たりGDPの1万^{ドル}を突破し¹⁹⁹⁾、2004年に又も旧ユーゴ構成国の先陣を切って欧州連合(EU)に加盟したが、独立の際に共に率先したクロアチアは05年10月に加盟交渉を開始したものの、他の旧ユーゴ構成国と同じく07年1月のEU第5次拡大には乗らなかった。国内のクロアチア人が約3/4を占める民族構成も常に1番手に成り難い事情を示唆するが、クロアチアの1人当たりGDPは09年に15284^{ドル}で堂々たる世界第42位である。旧ユーゴの最西・北端のスロベニアと東隣のクロアチアの経済的な豊かさと社会の変貌の速さは、俱にアルバニアと接壤する西南の隅のコソボ・マケドニア(緯度の高一低順)の落後・動乱と対照的で、中国の人口地理分布構造を示す黒河-騰衝線の両側の「東南高/西北低」とは逆の「西北高/東南低」を呈する。

クロアチアは西のアドリア海に接する細長い沿岸部と東のセルビアに繋がる内陸部から成り、ザグレブは東南-西北を貫く前者と北部に横に広がる後者の結合部に在りスロベニアに近いが、建国当初ソ連を後ろ盾にする意図も込めて首都に選ばれた北京の位置・指向性と重なる(両地の北緯46度対40度は同じ広域帯に同居し、東経16度対116度の100度差も興味深い)。周辺を引き付ける「首富(最富裕)国」の影響力・求心力の磁場も此処で感じられるが、「次富(2番目に豊かな)国」の首都・ザグレブが50億人目の「世界市民」の生地に使われたのは、経済水準の座標系から眺めれば「地球総中流」の願望の屈折した発露の様にも捉えられる。クロアチアは1996年のマクドナルド開店²⁰⁰⁾で中産階級の台頭・消費需要の向上を印象付け、2007年には1人当たりGDPの1万^{ドル}突破(11559^{ドル})²⁰¹⁾で先進国入りの次元まで大きな跳躍を遂げた。

世代収入1日20-50^{ドル}で生活している者(購買力平価で換算後、以下同)の人口比の世界順位は、2004年のクロアチアはスロバキア、ハンガリー、チェコ(67%, 66%, 65%)に次ぐ4位(55%)だが、絶対数で中国、米国、露西亜が1位-3位(1.92億人, 8000万人, 4100万人)

と成ったこの層は、東欧・西欧に於ける対人口比が世界の中で突出し正に一応の余裕を持つ「小康」（中流）である（因みに、西欧ではより裕福に暮らす世代収入1日50-100ドルでの生活者の比率がこれを上回り、逆に東欧ではこの群体は下の10-20ドル層の比率を下回る²⁰²⁾）。同じ国連開発計画『人間開発報告書2004』に拠る同年の世代収入1日10-20ドルでの生活者の比率は、ボスニア・ヘルツェゴビナが最高（55%）で次のアルバニアとマケドニアは48%だった。この区分は貧困国では比較的高所得に成り、先進国では低所得層である為に俱に低いが、人口の26%に占める中国の3.32億人が際立って多く²⁰³⁾、上位御3家は巡り巡って中国の往年の盟友を含みその一帯に集中していた。

「地球村」の第50億、60億人目は奇しくも隣接の2ヵ国の280^キしか離れていない首都で生まれたが、独立が第2波のマケドニアよりも遅れたボスニア・ヘルツェゴビナはスロベニアとクロアチアに対して、2009年の1人当りGDPはIMFの調べで其々1/5.5と1/3.5に過ぎず順位も60位、50位ほど低い。マクドナルドの規模が世界人口100万人当り5店と成った2004年には、未だ「国際大家庭」構成員の総数の半数強に当る102の国にはマクドナルドの店舗が無かった²⁰⁴⁾が、旧ユーゴ域内の唯一の空白区と欧州の中の例外的な非「マクドナルドの国」・アルバニアの上位隣接は、世代収入1日10-20ドルでの生活者及び比率の高い国の「中流未満・下流辺境」の位置が確認できよう。連邦構成国間の貧富格差が危険水域の7.5倍に差し掛かった頃のザグレブで50億人目が誕生し、次の10億人累積の大台乗せの舞台が干支の1小周り後のコソボ紛争後のサラエボに回った事は、「人往高处走」（人は高き^{のほ}に上る）の理想に逆行する「水往低処流」（水は低きに流れる）の観が有る。

上記のアルバニアと中国の1人当りGDPの世界順位の「比隣」は、毛沢東が王勃の「天涯若比隣」（天涯^{ひりん} 比隣^{こと}の若し）を借りて両国の絆を讃えた事に因む。アルバニアの首都・ティラナの北緯41度20分と北京の僅差も考え様に由っては、上の句の「海内存知己」（海内^{かいだい} 知己^{ちき}存す）の形容に使っても能さそうである。結びの「無為在岐路、儿女共沾巾」（岐路^{きろ}に在って、儿女と共に巾を沾すを為す無^なれ）²⁰⁵⁾を捩って言えば、毛が欧州の社会主義の「明灯」（明^{とも}るい^{しび}灯火。正しい方向に導く灯台・道標^{みちしるべ}）に譬えたアルバニアは、毛の死後に中国の改革・開放路線への転換を「修正主義」と批判し自ら無為の儘で岐路に自閉し続けた。欧州一の最貧国と揶揄された1980年代を経て1党独裁の放棄、市場経済の導入・对外开放に踏み切り、国名から「社会主義人民」を削除して「共和国」のみ残した翌92年の総選挙では、長年の与党は「労働党」から「社会党」を改名した甲斐も無く大敗し戦後初の非共産政権が誕生した。

正真正銘の「比隣圏」内の柬埔寨^{カンボジア}は中国が「近攻」の為に「遠交」を結んだアルバニアと好一對の鬼子で、1975年に成立したポル・ポト政権は垂死の毛の首肯で「文革」よりも残忍な闘争と野蛮な虐殺を断行し、中国が「継統革命」の呪縛と訣別した78年にかの「迫害狂」は原始共産主義に駆られて通貨を全廃した。翌年の同政権の崩壊と89年の越南軍撤退を経て92年

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

から国連東埔寨暫定統治機構に由る統治が始まったが、未だに東亜細亜で最貧困の部類に属する（2009年の1人当たりGDPは768ドルで、世界順位は152番目）。アルバニアと同様92年に健全な方向へ大きく転換したのは同年のユーゴ解体と結び付ければ興味深い。前年末のソ連解体に刺激され意味深げに湾岸戦争1周年の1月17日かに始まった鄧小平の「南巡」も、改革・開放の尖兵・深圳の成功を踏まえて上海の浦東開発を決断し経済大国化への第2段の飛躍を始めた。

広東の深圳・珠海・汕頭と福建の廈門で1980-81年に設置した経済特区は88年に海南省全域に広がり、南部沿海地域に散り嵌められたこれらの「金剛鑽」（金剛石）の前衛的な創新・^{イノベーション}開拓の牽引が奏効して、中国は21世紀の最有力新興国のBRICs（国名の頭文字で伯刺西爾・露西亞・印度・中国を指す）の中で、最大の「金磚」（金塊。BRICsが引っ掛けたbrick〔煉瓦〕を生かす中国語訳は「金磚4国」と成った。新興国台頭の象徴として囃し出されたこの新概念は、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントのジム・オニール会長が2001年に発案したものだ²⁰⁶）が、米国の最大手投資銀行であるゴールドマン・サックスの中国語表記「高盛」と暗合して、中国は改革・開放の30年後に高度成長の隆盛を呈し2008年に1人当たりGDPが3000ドルを突破した。消費の活発化や社会の安定化に繋がるこの転換点に日本が到達したのは高度成長期の最中の1973年なので、明治維新（1867-68開始）と戊戌（1898）変法（百日維新）以降の両国間の30-40年の発展時差²⁰⁷は見事に示された。

日本の平均GDPの3000ドル突破は東京五輪（1964）→大阪万博（70）の展開の延長線に在ったが、中国は新興大国の登龍門に相応しく北京五輪の開催年（2008）に同指標を達成した。韓国は漢城五輪の直前の「民主化元年」（1987）に3000ドルを超え、日本初主催の五輪と万博の時間差より1年短い間隔で93年に大田万博を開催したが、鄧小平「南巡」の翌年に大規模開発が本格的に始動し後に爆発的に変貌した上海は、北京五輪の僅か2年後に中国初主催の万博で実力と存在感を示した。2007年11月に韓国の麗水市が2012年万博の開催権を獲得したのは、成長速度を巡る東北亜細亜3強の競争の新展開を思わせるが、上海万博開幕の翌6月にGDPが満を持して世界2位と成った中国の勢いは容易に追隨を許さない。

日本の経済規模は西独を抜いた1968年から世界2位の座を42年間守り続け、2010年には名目GDP（米ドル換算）が到頭中国を下回ったが、東京五輪と北京五輪、大阪万博と上海万博の間隔（44年、40年）の中間に当るこの発展時差は意味深長だ。日本の平均GDPの3000ドル超えは第1次石油危機と円の変動相場制への移行の節目に実現したが、中国も北京五輪の翌9月のリーマン・ブラザーズ（米国の名門投資銀行）の経営破綻で世界的な金融危機の洗礼を受けたし、2005年7月の人民元の対米ドル固定相場制から管理変動制への移行は32年半前の日本の足跡を踏んだ様に見える。日本は1973年2月14日に1ドル=308円の固定相場を放棄し1ドル=277円からの完全変動に踏み切ったが、「情人節」に片思いの相手（米国）に土産を贈

る観の有ったこの措置を発展時差の座標で参照すれば、上限の40数年後の2010年代半ばまでに人民元の大幅な切り上げが有っても然るべきかも知れない（聖バレンタインの記念日は日本では1958年頃から流行したが、中国本土に入り徐々に市民権獲得に至ったのはやはり約30年後の事である²⁰⁸⁾）。

中国のGDPは改革・開放初期の1980年に日本の1/5程度に過ぎなかったが、2005年に日本の約半分と成って僅か5年で逆転した。日本内閣府の試算数値発表で世界2位の座を明け渡すことが確定した2011年2月14日は、巡り巡って38年前の日本円の固定相場放棄と同じ「バレンタイン・デー」に当る。人民元の管理変動制へ移行した年は日本とのGDPの半分の差を埋め尽くす最後の跳躍の起点と成ったが、その10年前の「バレンタイン・デー」の翌日に中国で12億人目が誕生したのは助走の一環とも思えて来る。北京五輪と上海万博の間隔は東京五輪と大阪万博のその1/3に当り、改革・開放から上海万博までの31年も3倍速「快進播放」（早送り再生）の様な^{ダッシュ}全力疾走を以て、明治維新から東京五輪・大阪万博までの約100年の成長・復興・飛躍を凝縮した。

両国とも「錦上添花」（錦に花を添える）と言う様に首都での五輪開催を経て昔か今の商都で万博を開催したが、政治・経済の中心が1極に集中する東京と異なって北京・上海の「政・経分担」の違いが鮮明で、北京は寧ろ広東・福建→上海・長江三角洲→首都圏（含む天津・唐山）の「3段跳び」の到達点に当る。広州発・東部沿海地域経由発の国民革命軍の北伐や上海で誕生した共産党の天下取りは最後に北京を制したが、「文革」後の経済建設の「新しい長征」でも南方が出发点・根拠地と成った。経済学者・胡鞍鋼等の国情分析専門家集団は1989年に『生存と発展』と題する提言報告書を刊行し、人口増加の天井と見られる2020年頃まで持続的な高成長を進める国家戦略の確立に大きな影響を与えたが、青写真の絵巻物の果ての西暦年と深圳経済特区の面積（2020平方^キ）の吻合は不思議な暗示を感じさせる。中共建党99周年に当る2020年は抗日戦争の勃発と改革・開放の発足の其々83年、41年の後なので、毛沢東の「帝国の表徴」の「言霊神話」を成す「8341」とも「天数」の奇縁で繋がる。

孫文を^{かしら}頭とする広東軍政府は北洋軍閥を打倒すべく1924年9月18日に「北伐宣言」を発表し、翌月23日に北京政府内の馮玉祥が首都で政変を起こした後、平和的な統一の為の孫文の北京入りで北上討伐は消えたが、孫の北京での客死（翌年3月12日）後の広東国民政府は設立1周年の26年7月1日、軍事委員会に由り「北伐動員令」を頒布した。国民革命軍は破竹の勢いで10月10日に恰度15年前に辛亥革命が勃発した武昌を攻め落とし、江西・福建・浙江を制した後の翌年4月12日に蒋介石総司令が上海で中共肅清の政変を行い、国共合作の破綻・決別と南京（右派）・武漢（左派）の両国民政府の分裂→合流（前者に由る併合）を経て、一旦停滞した北伐は28年4月8日に再開した。山東・済南で日本軍と武力衝突した後は北洋軍の閻錫山・馮玉祥の部隊を傘下に加え進撃し、遂に奉天系軍閥・張作霖を北京から追い出し首

都制覇を果した。本拠地へ退却中の張「大帥」（総帥）は6月4日未明に瀋陽近郊の皇姑屯で関東軍に爆殺されたが、満23歳の翌日に当るこの日に亡き父の後を継いだ「少帥」（若総帥）張学良は12月29日に国民政府への服属を表明し、東北で北洋政府の5色旗から「青天白日满地紅旗」に換える「易幟」で北伐に由る全国統一は完了した。「北伐宣言」の満7年後に「9.18満州事変」（関東軍に由る瀋陽郊外の柳条溝〔湖〕鉄道爆破）が起き、「北伐動員令」は奇しくも5年前に成立した中共の建党記念日²⁰⁹に当るが、「満州某重大事件」（張作霖爆殺を隠蔽する為の当時の日本政府の言い回し）の恰度58年後、歴史の年輪を縦横に貫く「天数」の数珠繋ぎの一環として北京で血腥い「共和国某重大事件」が起きた。

マクドナルドは「6.4」武力鎮圧の翌年に深圳で上陸し2年後に首都攻略を果したが、鄧小平の最後の闘争と成った同年初頭の「南巡」も遠交近攻の「北伐」に他ならない。毛沢東は恐らくあの世から生誕99年（1992）の首都のこの変容を、帝国主義の「文化滲透」作戦に由る「平和演変」（平和的な変質）と見たのかも知れない。生誕も共産党への入党も自分より1年早いチトーを彼は1948年から「文革」の直前まで数度も批判したが、「資本主義を復活させた」という罪名はマクドナルドの進出の有無・早晚を見ても無実なのである。何しろスターリン死去の直前（53年1月13日）に始まったチトー独裁の終焉（80年5月4日）から20年以上経っても、ボスニア・ヘルツェゴビナは依然として西側の生活様式の見本の様なマクドナルドに見放された儘である。クロアチアでの出店が1人当たりGDPの低い北京より4年遅かったのも皮肉な顛倒^{あべこべ}の様に見えるが、後継者を定めなかったチトーの他界の3ヵ月後にクロアチア・セルビアで大規模な独立暴動が起きた事は、中国流で言う「趨利避害」（利に赴き害を避ける。有害なものを避け有利な方向に向う）指向が読み取れるマクドナルドの選択の説明に成る。

多国展開の故「脱国籍」の評が有るマクドナルドはやはり世界の「首富国」（首位^{トップクラス}の富^{ゆたかなくに}国）の超弩級企業であり、その海外開拓の意思決定には「国際警察」・米国の「普遍的な価値観」に沿う取捨も見え隠れする。「亜細亜“4小龍”」の中で人口・経済総量とも1番の韓国への進出が最も遅い1988年だったのも、前年の大統領候補・盧泰愚に由る「6.29民主化宣言」と同年の漢城^{ソウル}五輪開催（9月17日-10月2日）を考えれば、政治的な保険を掛け「漢江の奇跡」と謳われる経済強国の台頭に見合う意味では理に適う時期と言えよう。16年ぶりの選挙（初の直接選挙）で号「庸堂」の盧が最後の軍人出身の大統領に選ばれ第6共和国が発足した背景には、24年前の東京に次ぐ亜細亜での2回目の夏季五輪を成功させねば成らぬ国益・民意の至上命題化が大きい。中央情報部長に由る朴正熙大統領暗殺（79年10月26日）で幕を開けた第5共和国は軍部の主導の下で、翌年に全国規模の「5.17非常戒厳令拡大措置」を発動し18-27日に光州で民主化運動を武力で弾圧したが、同時代の台湾海峡兩岸の「小龍」と「巨龍」の党・軍独裁の伝統及び「君子豹変」の脱皮と照合すれば興味深い。

台湾では1947年「2.28白色恐怖^{チロ}」と呼ばれる民衆弾圧の際に戒厳令が敷かれ、4月22日に

国民党政権が行政長官公署の廃止（陳儀行政長官が引責辞職）、省政府の設置を決定し、5月16日に魏道明がを主席とする省政府が成立し翌日からの戒厳令解除を宣言した。翌年末に蒋介石の腹心（後54-65年に「中華民国副総統」）・陳誠が省主席兼警備総司令官に任命され、南京「落城」の1ヵ月後と上海「陥落」の1週間前の49年5月20日に台湾全域で再び戒厳令が布告された。台湾で国民党省委員会主任委員、「国防部」総政治部主任、「国防部長」「行政院長」等を歴任した蔣経国は、87年7月14日に「総統」（78年5月20日-88年1月13日）として、世界最長の38年余りを記録した全省戒厳令を翌日から解除すると発表した。「太子党」の筆頭として「蔣家王朝」の最高位を世襲した彼の決断の発端は巡り巡って、不都合な内幕を暴露した『蔣経国伝』（84）の著者・江南（本名・劉宜良）が国籍取得先の米国で暗殺された事だ。蔣経国の次男・蔣孝武の指図と「国防部」情報局長・汪希苓の派遣で、台湾最大の暴力団組織「竹聯幫」の首領・陳啓礼等が渡航して84年10月15日に手を下したが、「白色恐怖」の戒厳令下だったこの年の台湾へのマクドナルド進出は韓国の場合に比べて勇気が要る事であろう。

1948年以降の60年に亘って「中華民国総統」就任式は5月20日に行うのが通例に成って来た（不規則の例外は大陸時代の蒋介石の下野〔レーニン死去の恰度四半世紀後の49年1月21日〕、彼と蔣経国の死去〔其々75年の清明節〈4月5日〉とチトー時代の幕開けの35周年〕に伴った3回）が、「非常・非情」戒厳の烙印が付く宿命的な「5.20」は奇しくも89年の北京部分地区戒厳令の開始日と成った。「2.28」戒厳終結42周年と光州戒厳令発動9周年の日に中国の急進改革派知識人集団が「5.17宣言」を作成し、鄧小平を「皇帝の肩書の無い皇帝」「老い^ほ耄れた独裁者」として痛烈に糾弾し、その代償として過激な民主化運動は「糾弾」の文字通り当局の銃弾で糾される破目に陥って了った。「6.4事変」の世界に与えた衝撃は光州事件を遙かに上回り中国は国際社会で一時孤立を余儀無くされたが、マクドナルドが翌年と3年後に深圳と北京に相継いで店舗を開設したのは、民主化を先取りした台湾進出とも似て中国本土の「窮→変→通」を見通した事と思われる。

1955年創業のマクドナルドは71年に日本で亜細亜の1号店を開業した後、香港への「登龍」（「小龍」への「登陸」〔上陸〕）を果たした翌76年から、モスクワ五輪開催の80年にソ連で事業を始めるよう交渉を進めたが、新嘉坡進出の79年の降誕祭^{クリスマス・イブ}の宵祭（12月24日）のソ連軍によるアフガニスタン侵攻で暗礁に乗り上げた。中国も含む大勢の国のモスクワ五輪^{ボイコット}参加拒否から9年半経って、90年1月30日に漸くモスクワでの第1号開店に漕ぎ着けたが、前年のアフガニスタンからのソ連撤兵終了（「中国12億人口日」と同様「情人節」^{バレンタイン・デー}の翌日）を待った上での慎重さは、西側企業の「鉄の窓掛^{カーテン}」への歴史的な突破の先駆に相応しい。1959年7月23日にニクソン副大統領が米国博覧会の開会式に出席する為にモスクワを訪れ、翌朝に会場の台所展示場等で共産主義と資本主義の優劣等を巡ってフルシチョフと論戦を繰り広げたが、その「厨房論争」に決着を付けるかの如く30年後のマクドナルドのモスクワ1号店の始業の際に、当

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

地では高級料理店並みの料金にも関わらず夜明け前から長蛇の列が出来て初日の来客は3万人を超した²¹⁰⁾。米国の食文化に魅せられた大衆の傾倒はソ連解体への傾斜と同じ方向で連動した観が有るが、資本主義のこの勝利は東側超大国に対抗する西側超大国の執念の結果だったとも言えよう。

世界覇権2強の首脳「唇槍舌剣」（唇は槍、舌は剣。舌端火を吐く。激しく論争・応酬する様）の前日の7月23日、毛沢東は政治局拡大会議（廬山）で彭德懷批判の口火を切って党・国を更に左旋回の迷走へ導いたが、中共第1回党大会開幕38周年のこの日の「逆噴射」は20年後に否定された。五輪誘致の雲行きが危うい中でマクドナルドはモスクワや漢城の場合と違って迷わず北京に足場を築いたが、先陣の深圳で証明済みの改革・開放の実績への揺ぎ無い信頼と将来性への洞察に拠る処が大きいだろう。ソ連解体後も「腐っても鯛」（中国流では「瘦死的駱駝比馬大」[瘦せて死んだ馬は駱駝より大きい]）と言う様に、露西亜は往年の栄光に余り恥じぬ経済水準を保っている（2009年の1人当たりGDPは世界60位の8694^{ドル}）が、成長の速度では中国の後塵を押し続け09年の経済総量は中国（4.91兆^{ドル}）の1/4（1.23兆^{ドル}）しか無く、順位も同じBRICsの^{フラジール}伯刺西爾（8位の1.57兆^{ドル}）と印度（11位、露より70億^{ドル}多い）の下の12番に甘んじた。同年の韓国の平均GDPの38位（17074^{ドル}）とGDP総額の15位（8325億^{ドル}）や、韓国と隣り合う台湾の平均GDP（39位の16392^{ドル}。GDP総額は25位の3790億^{ドル}）を見ても、四半世紀前から冷戦終結の直後までの台湾→韓国→ソ連・中国でのマクドナルド出店は自然な流れと思える。

1990年代の初頭にソ・中への進出を成し遂げた事は最後に残った超大国の立場からすれば、20世紀の抗争に対する「了結」（けじめ）と21世紀の競合に纏わる「情結」（^{コンプレックス}複雑な感情）が感じられるが、中国を制すれば世界最大の「爆食巨龍」の胃袋を掴むことに成るのは火を見るよりも明らかである。北京市の常住人口の1人当たりGDPは五輪開催の翌年に10070^{ドル}と初の5桁大台に乗り、市の政府筋は世界銀行の基準に基づいて「中等富裕都市」と自己規定したが、同年の10.1%増の速度が維持でき且つ人民元対米ドル相場が堅調に推移するならば、翌10年には先進国・地域の水準を意味する1.1万^{ドル}に達成する見込みである²¹¹⁾。「万元戸」（改革・開放初期の金持ちの代名詞、年収1万元の者）を超えて「万美元戸」（美元＝米ドル）と成ったのは、旧ユーゴの中の最富裕のスロベニアより10年も遅いが、2年早く達成したクロアチアの4年前にマクドナルドを受け入れた事は「中国情結」の強さを窺わせ、首都を攻略しておけば本土を掌中に収められるという「北京情結」の合理性・生産性も再確認できよう。

非「教父」の胡錦濤の世界影響力1位が物語る域外の驚異＋脅威の「中国^{コンプレックス}情結」

米誌『フォーブス』は2010年11月4日に恒例の本年度「世界影響力^{ランキン}番付」を発表し、世界

で最も影響力の有る人物の第1位は前回のオバマに代って胡錦濤を選んだ。米国大統領の第2位への下落は2日前の中間選挙での民主党の歴史的な大敗が要因と成っており、一方の中国国家主席は世界人口の1/5に当る13億人の国民をほぼ独裁的に支配していると言う。サウジアラビア亜刺比亜国王の第3位はマクドナルドの同国進出の遅さ(1994)を思えば奇妙な感じもするが、第4位の露西亜首相と同じく資源大国の実力の体現として受け止めれば領ける。次の羅馬法王も世界最小(東京ディズニーランドの0.49平方^キにも及ばぬ0.44平方^キ)の市国に居ながら、中・印国民の13億、12億に次ぐ11億人もの旧^{カトリック}教信徒の総教祖として大国元首並みの位置付けも当然である。

バチカンの人口は1988年の770人から2005年557人を経て09年には784人であるが、人口密度の1875人/平方^キは上位4人の国の同140人、34人、12.8人、8人の13倍強-230倍強に当る。毎週水曜日の羅馬法王の一般謁見で世界から来た数万人の信者が広場で拝観・拝聴する儀式は、「全ての道は羅馬に通じる」(中国語=「条条大路通羅馬」とは別種の「羅馬情結」を感じさせる。英語のAll roads lead to Romeのlead(導く)と法王を表わす中国語の「教皇」に引っ掛ければ、「偉大な」を冠する賛辞の「導師・領袖・統帥・舵手(舵取り)」の1番目だけを認めた毛沢東が思い浮かぶ。若い頃の教員担当歴と「現役教員」の自任を理由に首肯した「導師」は教師(teacher)の心算^{つもり}でいた²¹²⁾が、中国語で指導教官をも指す「導師」は日本語で仏・菩薩の敬称(仏道を説いて衆生を悟りに導く者の意)で、対応の英語は寧ろ^グル^ル([ヒンドゥー教・シク教] 導師・教師、[運動・思想・宗教等の]^{カリスマ} 超人的な指導者・権威者・専門家)で、毛に対する「文革」中の個人崇拜は「導師」以上の「教祖」や「教父」(グッド・ファーザー)の域に入った。

天安門広場で彼の姿を拝見する為に百万人も^{ひし}薙めいた紅衛兵の物理的な超過密と心理的な超熱狂は、同じ44万平方^{メートル}(広場の南北、東西の幅が880^{メートル}、500^{メートル})のバチカンでの信者集合よりも凄い。世界最大の広場と最小の市国の同面積の「帝国の表徴」と「表徴の帝国」の対の象徴として意味深長だが、毛沢東の死後その晩年の暴政への反動で起きた体制・社会主義への不信が「信仰危機」と呼ばれたのも、全国民が随時に領袖への忠誠を誓う儀式を繰り返した「文革」前期の奇観と表裏一体である。中国では国民党時代から「信仰」は信奉の意が有り主義・主張・学説等に就いても広く用いるが、政治信条・信念をも指す「政治信仰」は宗教的な性質を濃厚に帯びている。

「信仰」は日本では『広辞苑』の語釈の通り、「信じたこととぶこと。宗教活動の意識的側面をいい、神聖なもの(絶対者・神をも含む)に対する畏怖からよりは、親和の情から生ずると考えられ、儀礼と相俟^{あいま}って宗教の体系を構成し、集団性および共通性を有する」とされる。親和の情に縁る結束は奇しくも「情結」の字面に埋め込まれており、この語の「複雑な感情」の意も信仰の「畏・敬」の重層に当て嵌まるが、毛沢東が「神壇」に祭り上げられ信^{たつと}じ^導ばれたの

は親和の情よりも神話の力に由る処が大きい。「始めに言葉有りき。言葉は神と共に在りき。言葉は神なりき。」という、『新約聖書・ヨハネに由る福音書』の冒頭の言を引き合いに出すまでもなく、毛の「新星爆発」も「神性暴騰」も世界的に普遍的な神格形成・「天声」発信の威光の例に漏れない。

胡锦涛乃至鄧小平より遥かに独裁的に中国を支配し且つ世界を大きく動かした毛沢東も、世界影響力で最上位辺りに居る時期が短くなかったと見て能かろう。20世紀の第2の1/3世紀の交に国民の人数分以上で発行し海外にも広く流布した『毛主席語録』は、一時『聖書』並みの影響力を発揮したものの僅か10年近くで蒸発し『聖書』の不滅を際立たせた。その生誕の翌年が西暦紀元の起源とされたイエス（実際は紀元前4年頃生まれ）を開祖とする基督教^{キリスト}の至高の教典の絶大な存在感は、2009年1月20日オバマが第44代合衆国大統領に就任する式典で端的に顕示された。アフリカ系米国人、本土以外（ハワイ^{ハワイ}州）の出身、1960年代以降の生まれとして建国以来の異例^{ずくめ}尽の彼は、200年前の1809年に誕生し自分の生年（1961）の恰度200年前に第16代大統領に成ったリンカーンの、就任式で使用した由緒有る『聖書』を左手に載せ右手を挙げて荘厳な宣誓を行なった。

憲法で定めた宣誓文の“I will faithfully execute the Office of President of the United States”（私は忠実に合衆国大統領の職務を遂行し）は、連邦最高裁判所長官の読み間違えて“faithfully”がこの文の最後に持って行かれた。副詞をそれが掛かる動詞の前に置くのが語順の鉄則と成る中国語では有り得ない初歩的な誤りだが、オバマは不正確さに気付き一瞬言い淀んだものの“faithfully”の文字通り忠実に復唱したので、宣誓は法的には有効でありながらも翌日^{ホワイトハウス}に大統領府で遣り直された。会場周辺で巨大テレビを通して歴史的な瞬間を見詰めていた群衆から長官の間違^{とよ}いで響動めきが起きたが、華盛頓の人口の3倍強の200万人という史上最多の観衆が国内外から盛典に集まったことは、米国の首都・大統領の求心力を雄弁に物語っている。35語の就任宣誓の中の先賢の手垢が付いた『聖書』の画龍点睛は政治と宗教の複合・相乗の符号に映るが、首脳の世界影響度の上位に在るサウジアラビア・露西亜や印度でも似た威勢の為政が見られる。

世界影響力番付の第6、7位に選ばれた独逸首相、英国首相は、両国の前年GDP（3.35兆^{ドル}、2.18兆^{ドル}）の世界第4、6の順位に合うが、逆に第5位の仏蘭西（2.68兆^{ドル}）の首脳が上位陣に無いのは世界影響力の相対的に弱さを浮き彫りにした（同年の1人当りGDPでは英、独は第22、16位 [35334^{ドル}、40875^{ドル}] で、仏は第15位 [42747^{ドル}] だから政治・外交の力不足の印象が尚更強い）。この3カ国へのマクドナルド進出順は西独（日・豪と同じ1971年）、仏（72）、英（74）であるが、西欧・亜細亜・大洋州の先進国の第1陣より四半世紀も遅れた（96）印度は、近未来の人口最多に由る可能性への「先物買い」かの如くこの番付で国民会議総裁が第9位に輝いた。

「^{ブリックス}金磚4国」の内の中・露・印の第1, 4, 9位の分布は軍事力を盾にする旧超大国の強味を思わせ、マクドナルドが79年に南米初（濠太刺利, 新西蘭 [76] に次ぐ南半球での3番目）の進出を果たした伯刺西爾は、逆に総合的な国力と「地球村」での存在感の遜色がやや有る様な印象が持たれた。伯刺西爾は2009年にリオデジャネイロの2016年五輪主催誘致に成功し、濠太刺利のメルボルン（1956）、シドニー（2000）に次ぐ南半球での3度目の夏季五輪は新興大国の登龍門に成ろうが、^{サッカー}蹴球の^{ワールド・カップ}世界杯の主催では同じ南半球の南アフリカの実績（2010）より4年遅れる（因みに、南アは伯刺西爾に比べてマクドナルド進出も16年遅い [1995] し、09のGDPの総額 [2872億ドル, 32位] と平均 [5824ドル, 74位] も其々24位, 13位低い）。

4大新興国と共に2050年への道を進もうという夢を米投資銀行がイラク戦後に売り捲くたのは、金融・資源の商品の高騰を演出し自ら利益を獲得する相場操縦の術と見て邪推とは言え切れない。この「虚業巨星」は伝統的に米国政府との癒着が深く中枢高官の人材供給源や天下り先と成っており、例えば1965年4月-68年12月に財務長官を務めたファウラーは退官後に同社の共同経営者に加わり、66年に入社後5年で共同経営者に抜擢され90年に共同会長に上り詰めたルービンは95年1月-99年7月に財務長官を務め、2006年7月-09年1月の財務長官・ポールソンはゴールドマン・サックスの前会長兼最高経営責任者（1999年就任）だ。越南戦争に本格的に突入したジョンソン政権、財政赤字の削減を強いられたクリントン政権、世界的な金融危機に襲われた小ブッシュ政権の下で、史上第58代、70代、74代に当る3人は国家経済の番頭として舵取りの役割を果たしたが、「特急」の超速度で出世した早年のルービンの異名・「軌取りの天才」の様な敏腕も感じ取れる。

『フォーブス』誌選2009年「世界影響力番付」の第8位は米国連邦準備制度理事会（FRB）議長で、最強国の中央銀行の機能を担う金融の番人の重みは給与が首相よりも高い日本銀行総裁を見ても分るが、記録的に5期連任した（1987年8月-2006年1月）グリーンSPANの後の第14代も栄光を浴びたわけだ。それと呼応する様に第10位は華盛頓州レドモンド市に本社を置くマイクロソフトのビル・ゲイツ会長だが、『フォーブス』の世界長者番付で1994年以降ほぼ1位（07, 09年は2位）を独占して来た彼は、マクドナルド創設の1955年に生まれ弱冠20歳で後に世界最大と成った電腦ソフトウェア企業を起し、その追隨を許さぬ成功は情報技術革命と富の両方に於ける米国の絶対的な強さの象徴と言って^よ能い。ニクソン政権で毎朝大統領に世界情勢を報告する「ザ・プレジデント・デイリー・ブリーフ」をキッシンジャー國務長官と共に担当したヤング博士が、マイクロソフト発足の75年にオックスフォード・アナリティカ（英国の情報分析・^{コンサルティング}顧問会社）の「デイリー・ブリーフ」を開始したが、現在49カ国の政府・国連・国際機関と160余りの世界的な企業・金融機関に配信されているこの情報提供の中で、紛争・動乱等の^{リスク}危険性項目を測る目安の「グローバル・ストレス・ポイント・マトリックス」が有り、近年「衝撃の度合い=最高」の2項目に挙げられる「ドルの崩壊」「^{インターネット}国際電脳網の崩壊」は、正にバーナ

ンキ議長とビル・ゲイツ会長の世界影響力番付での10傑入りと表裏一体を成す。

2009年11月の第1週のGSPでは、次の「衝撃度=高い」(5項目)の1, 2番目の「中国と台湾の軍事衝突」「米国に由るイラン攻撃」は、上記の世界影響力番付に於ける胡锦涛、オバマの高位と妙に符合する。世界緊張危険性要因一覧の第8-22の「中程度」項目の中で「原油価格の急変」が最初に出たのは、この範疇内の第6, 7(全体の中の第13, 14)の「露西亜の対外的軍事行動」「欧州通貨からの主要国離脱」と共に、世界情勢に対するサウジ亜刺比亜の元首と露西亜・独逸の首脳の影響力の高さの裏付けに成る。更に2位, 3位下の「印度とパキスタンの軍事衝突」「パキスタンの政権崩壊」から、印度及び「金磚4国」の半分強(含む露西亜の相当部分)を占める亜細亜の地政学的な危険性が再認識させられる。「煉瓦」に引っかけた洒落でBRICsの冒頭に位置する伯刺西爾が全25項目に入っていないのは、中国の高緊張・高成長や露西亜・印度の中緊張・高成長と対照的な低緊張・高成長の現れと取るなら、「無限風光在險峰」(無限の風光 險峰に在り)という周恩来がニクソンに紹介した毛沢東の詩句²¹³⁾の通り、中国流で言う「風険」(リスク)と「回報」(見返り)の正比例に合う結果と考えられる。

BRICsの中で伯・露に次ぐ印・中のICは両国の電腦製造や情報技術産業の発達に因んで、集積回路(integrated circuit)の略称を振った意味も有る。中国は1997年の香港返還後に第1次鴉片戦争の直前に英国に冠された「世界の工場」の地位に就いたが、1877年の英国領印度帝国の成立から1947年「8.15」独立まで70年も英国に従属していた印度は、歴史の巡り合わせで国民の英語力の強味を生かして中国と張り合う「世界の事務所」^{オフィス}に変貌した。米国企業の顧客対応等の業務を引き受ける「人智戦略」(中国的な「人海戦術」^{なぞら}に擬えた造語)に由って、国際電腦網^{インターネット}で距離や時差の隔たりを超える展開はマクドナルドにも似た脱国籍・多地域の性格を持つ。窮乏の故の安価な人件費と貪欲の故の勤勉な国民性を武器に台頭した両「発展途上準超大国」は又、社会主義国家と民主主義国家の中で其々最大の政治団体を擁する処も共通している。印度の政党として最も古い歴史を持つ国民会議派は1885年12月28日にボンベイ(現・ムンバイ)で創設し、72人の代表が集まった第1回会議から60数年の苦節を経て独立後の30年間は与党であり続けた。英領帝国成立100周年の1977年に中央政權の座を奪われたのは民主主義に対する独裁専制の敗北とされたが、80年の復権→89年の下野→91年の勝利、96年の転落を経て2004年に再び咲きし、10年に党首が世界影響力番付の10傑に入ったのは「民主主義は数の力なり」の原理に合致する。

翻って、胡锦涛の世界影響力No.1も突き詰めれば数の力が物を言うという普遍的な価値観に沿うものだ。中共第1回党大会の出席者は只13名(共産國際の2人の代表[荷兰人马林、俄国人尼克爾斯基]は含まず)に過ぎなかったが、僅か28年で政權を取り統治下の国民は建党から83年半の後に創設代表の1億倍に当る13億人に達した。毛沢東が開国大典で28発の礼砲を鳴らすよう指示したのは、建党から建国までの年数に当る党史へ礼讃の為だと言う²¹⁴⁾

が、この順当な理由の他に彼の建党時の年齢や氏名の漢字の画数も思い当たる。その「28 情結」に即して思えば建国の 28 年目は毛沢東・周恩来・朱徳逝去の翌年に当り、その 1977 年には 5 月の鄧小平の職務復帰に続いて第 11 回党大会で華国鋒主席は「文革」の終結を宣言した。歴史的な転換の道標と成った大会の閉幕日の 8 月 18 日は巡り巡って、陝西北部で国民党軍に銃撃の射程内まで追撃されたという毛の生涯最大の危急²¹⁵⁾の恰度 30 年後だ。建国直後の年末に成った毛の満年齢の 56 は奇しくも国内民族の総数と一致するが、建国 56 周年の年頭に 13 億人目の国民の誕生は建党からの期間で「83 (41)」の天数の示現が見られる。

「1 大」開催時の党員数も長年の権威有る 53 人説と違って最近の調査で 56 人という新説が出た²¹⁶⁾が、28 の倍数で「中華民族大家庭」の「種族」数と同じこの人数は建国時に 449 万人に成り、80179 倍もの増加は 28.2 年で割れば毎年平均して創設構成員の 28.43 倍の 15.9 万人が増えた計算である。2010 年建党記念日の前日に発表された最新の党員数は建国時の 17.37 倍に当る 7799.5 万人に達しが、経過期間の 60.8 年で割った年率 28.57% は建国前の 28.43 倍の 1% に過ぎないものの、引き続き 28 の「天数力」を発揮するかのように人口に占める党員の比率を 1% 強から 6% 程度に押し上げた。因みに、小数点以下の 43 と 57 は合計が 100 の組み合わせだけでなく、其々毛沢東の党主席就任・全権総攬と「反右派」肅清・独裁開始の西暦年の下 2 桁である。

中国の与党党員数は何時の間にか 2009 年世界人口²¹⁷⁾で第 17 位の土耳其 (7482 万) を超えており、第 14-16 位の埃及・エチオピア・独逸 (8300 万, 8282 万, 8217 万) への牛蒡抜きは時間の問題であり、人類史上初の 9 桁の党員を擁する超巨大政党の出現も近未来時間の問題であろう。2002 年 10 月党大会時の 6694.1 万から 07 年 6 月の 7336.3 万は平均毎年 142.7 人 (2.1%) 増²¹⁸⁾で、その後の 3 年の大体同じ速度 (平均毎年 154.4 万人増) で安定的な持続成長をして来たので、母体数の通増に伴う年度毎の増加数の通増傾向を考慮すれば、更に 11 年後の建党 100 周年の節目に党員 1 億人の実現も不可能ではない。上海万博で入場者の史上最多記録を作る為の国家の必死な努力と確かな達成を見ても、途中の予想外の低迷が招いた内外の悲観・懐疑を見事に覆す政権の意志と実力の強さが確認できる。

曾て 1999 年 4 月 25 日に 1 万人の法輪功信者が正当性を主張する為の坐り込みを中南海の周辺に敢行し、10 年前の同月 19 日に中南海・新華門で民主化急進派学生が突入を図って警備陣と激突し、その導火線²¹⁹⁾で 25 日に鄧小平等が『人民日報』社説に由る反「動乱」宣言を決断しただけに、不意打ちを受けた当局は天安門事件の再来の悪夢に戦慄し新しい大敵を極度に警戒するように成った。大規模の隠蔽作戦の成功で一挙に脚光を浴びたその擬似新興宗教集団は海外で忽ち過大評価され、共産党に匹敵する数千万もの信者の結束力を以て太平天国並みの大乱を成し遂げかねないとまで囁かれた。ところが、当局の撲滅運動で国内の法輪功は瞬く間に一掃され地下に潜ると域外で活動するしかなかった。米国に本拠を置く機関紙『大紀元時報』(週

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

刊）は数年来、毎号に「退党退団退隊者総人数」（共産党・共産主義青年団・少年先鋒隊からの脱退者総数）の統計を載せており、2004年12月3日以降の累積は僅か6年で9000万人に迫る天文学的数字と成った。中共党員は2009年末に前年末の共青团員総数（7858.5万人）とほぼ同じ水準の7799.5万人に達し、同時期の1.3億人の少先隊員を加えて総勢2.9億人もの革命大集団を成しているが、その中の3割に相当し億に近い人も離脱の意志表示をしたとは希望的な観測を超えて、「痴人説夢」（痴人に夢を説く。出来もしない馬鹿げた事の比喩）と言うべき荒唐無稽の泡沫^{バブル}に他ならない。

ニクソンは中国政府主催の歓迎宴会での挨拶や毛沢東との会見で、「一万年太久，只争朝夕」（一万年は太に久しければ，只朝夕を争わん）という毛の詞を引用した。その「滿江紅・和郭沫若同志（郭沫若同志に和す）」（1963年1月9日）の前段に、「螞蟻緣槐誇大國，虬蟻撼樹談何易」（螞蟻 槐に縁りて大國を誇るとも，虬蟻が樹を撼る 談何んぞ易しき）と有るが、白日夢や「以卵擊石」（卵を以て石を撃つ。力の弱さを顧みず強敵に立ち向って自滅する譬え）に対する揶揄は、元より気功修練に由って人気が集まった法輪功の曇気楼めく雲消霧散の形容にも適う。建国の翌々年に生まれ80年代に法輪功を創設し96年に米国に移住した李洪志の求心力・影響力の限界は、首都・本国に於ける立脚の地の喪失と互いに因果関係に在ると思われるが、逆に政権の「大樹」に寄る「長い物には巻かれる」の群衆心理は「北京情結・毛沢東情結」と通底する。

世界影響力番付に於ける菅直人首相の第27位は「日の出の国」の「斜陽」ぶりを映し出し、発表直前の11月1日に露西亜大統領が日本の領有主張を無視して国後島を初訪問したのも、4ヵ月前に第2経済大國の座を失った日本の国際舞台での頽勢の現れとして強弱の大差を裏付ける。前年8月30日の衆議院総選挙で自民党が歴史的な大敗を喫し、米国と同じく民主党が日本の与党に成ったが、年末の党員・党友が自民党の約1/4に当る26.9万人（全人口の0.2%）しかいないのは、「天下取っても四畳半」という熟語の様に所帯の小ささと欲望の薄さを感じさせる。民主主義國家の中の最大政党がその圏内で人口が最も多印度に在ることは、09年初頭から米国を席卷した保守派の草の根の運動「茶話会」^{ティーパーティー}の百万人単位の規模と共に、日本の政治・社会の「少食・草食」系の常識への疑問を提起して来る。

日本では印度国民會議派の成立の年に初代内閣・首相が誕生し福沢諭吉が「富国強兵」を唱え、60年後の戦敗を転機に「皇・軍」（天皇・軍部）主導・対外拡張の「國家の時代」から官僚主導・経済専念の「企業時代」に変わり、更に干支の1巡後の2005年から指導者不在・朝野劣化の「個人の時代」に入った²¹⁹⁾。同じ2005年の1月6日に北京で13億人目の國民に当る「小皇帝」が誕生し、中国で子供誕生祝いの節目と成る100日目の4月15日には、一部の都市で続発した「憤青」（憤怒の青年）^{グループ}群体の涉外示威^{デモ}が中央の制御不能の寸前まで発展した。日本の国連安保理常任理事國入りに反対する署名活動・抗議行進が3月26、27日に広州・深

圳で起き、「北伐」挺進の勃発として4月2日に成都の「伊藤洋華（イトーヨーカ）堂」前で小規模の抗議行動が起き、窓硝子^{ガラス}を割る等と過激化し²²⁰、燎原の火が忽ち深圳（3日）、北京（9日）等まで広がり、16日に上海で前代未聞の10万人規模の示威行進が行われた。日本外相訪中の17日に北京で予定の示威行進は当局の阻止で中止と成り全国でも一気に鎮静化したが、「百尺竿頭、更進一步」の寓意を持つ101の天数（自然の命数）を中国語の「天数」（日数）に引っ掛ければ、度を越す行き過ぎとそれを糺す緊急発動の両方に暗合する。

その山場の恰度5年半後の2010年10月16日、釣魚島（日本名・尖閣諸島）附近での中国漁船と日本海上保安庁巡視船の衝突事件（9月7日）に抗議して、又もや日本の小売業大手企業・イトーヨーカ堂の成都店が暴力的な群衆示威の第1弾の標的にされ、今度は数千人規模の騒ぎで店は客を避難させ臨時休業を余儀無くされた。同日の西安・鄭州と翌日の〔四川〕綿陽、翌々日の武漢、23日の〔四川〕徳陽、24日の蘭州・〔陝西〕宝鶏、26日の重慶、30日の長春等で類似の行動が起きたものの、中国の外交勝利・内政規制と元々の私的な鬱憤晴らしの性格等の複合要因で間も無く下火に成ったが、国内の貧富水準の段差に符合する人口地理分布境界線の黒河（黒龍江）-騰衝（雲南）線の以西には多く、以東に在る豊かな地域に余り波及しなかったのは地理政治学の見地から考えても興味深い。次期総書記の確定に繋がる習近平の軍委副主席就任の有無が焦点と成る党中央総会（15-18日）の最中、首都に於いて和諧（調和）²²¹を脅かす如何なる不穏な動きも封じ込まれるのは至極当然の事であるが、上海と広州・深圳でも今回は波乱が無いのは「紛争防止の黄金のM型拱理論^{アーチ}」でも説明できそうだ。深圳も北京もマクドナルドの出店が20年前後経ったので、過激な闘争に挑む隊列より快適な外食を求める行列に加わる層の圧倒的な増加が安定を増していると思える。

世界緊張度項目の「行列」^{グローバル・ストレス・ポイント マトリックス}で3位に在る「中国と台湾の軍事衝突」も、マクドナルドの中国進出の1990年以降は危機的な状況は1度も無かった。逆に前回の世界影響力番付の発表前の09年11月の第1週のGSPでは、危険性の各項目が1年以内に現実化する可能性を示す「緊張の強さ」は「+50」～「-50」の範囲内で数値化し、最低の「-38」は他ならぬ中・台の軍事衝突である（次に低いのは4位の「米国に由るイラン攻撃」の「-28」、22位の「イスラム武装勢力に由る大規模攻撃」の「-27」、1位の「ドルの崩壊」の「-26」）。対して、同じ衝撃度「中」（8-22位）に在る「中南米政府の石油瓦斯部門への介入」（11位）と「ナイジェリア沖合油田への攻撃」（15位）は、蓋然性が最も高い「+25」「+20」で石油・南半球の複合危険を思わせる。

次に高い「+18」の「北朝鮮の軍事対立」（23位）と同じ衝撃度「低」の部類の中で、25位の「バル幹半島諸国の混乱再発」^{バルカン}の緊張度「+15」は先週からの変化率が全項目中の最高の0.9であった。一覧の最後に位置するこの項目の変動は掲載紙の解説に拠ると、「バル幹半島諸国の混乱再発リスクが上昇した。西側諸国は、ボスニア・ヘルツェゴビナの政治的な膠着

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

状態を解消しようと外交ルートを通じて調停を試みたが、同国の政治指導者らによって拒絶された。交渉の決裂は、機能不全に陥ったボスニアの危機の深刻さと分断の大きさを物語っている。今回の西側諸国による取り組みは、内戦を終結させた1995年のデートン合意を通じたもので、欧州連合（EU）と米国の間で初めて、部分的ながら協調した動きも見られた。しかし、過去の失敗を繰り返してしまい、取り組みは失敗に終わった。」²²²⁾

世界緊張度要因一覧の衝撃度「低」の3項目の真ん中は「中央亜細亜での大規模な混乱」であるが、上の北朝鮮の全体の下から3番目は同じ軍事衝突が懸念される台湾の上からの3位と興味深い対照を成す。俱に東北亜細亜の中のこの2つの民族分断が60年以上続いた国や地域の人口は、その年に同じ2300万人台の上限と下限に在る（2391万対2305万、間にガーナ・イエメンが有る）。世界人口の0.35%しか無い朝鮮民主主義人民共和国の世界順位は47位で、翌年の世界影響力番付で国王が4位に選ばれたサウジアラビア（46位、2572万）に次ぐが、核実験等で恐喝を繰り返した「無頼」の狂暴の割に衝撃度が低いのは国の規模の小ささも一因であろう。バルカン^{バルカン}半島諸国の厄介さも国際社会にとって喉に引っ掛かった小骨の様な物だが、世界緊張度「行列」の末尾で懸念が薄い地域・領域との境界線上に在る微妙な位置付けは又、世界の50億人目、60億人目の誕生の舞台に選ばれた「巧合」（偶然の一致）の別の象徴性を思わせる。

バルカン^{バルカン}半島諸国の混乱再発の緊張度が高まった2009年10月、60億人目のアドナンは12日に個人的な心配事を抱えた儘で満10歳を迎えた。映画館の暖房炊きである父親が盲腸で入院生活を送っており母親が無職状態で、彼自身に送られる市の援助金を足しても国民の平均収入に満たない生活²²³⁾は、冷戦終結後の国際競争時代に於ける旧東欧共産圏国家の普遍的な立ち遅れと共に、12億人目の中国人が13億人目誕生の頃の病弱や家庭の貧困と二重映しに成る。「世界人口日」の日付は1973年に米国で発祥したコンビニエンスストア「7-Eleven」と偶然に重なるが、その本家の合同標語「Thank Heaven, Seven Eleven」（セブン-イレブン、有り難い）に倣って、セブン-イレブン・ジャパンの「セブン-イレブン いい気分！」も韻を踏み爽快な響きがする。「マテイちゃんと同じ世代の人々が平和に暮らせるように」という国連事務総長の祝福の言葉も空しく、節目節目で脚光を浴びた趙旭・アドナンはHeaven（極楽。楽園）と「好い気分」は恵まれておらず、米国の3億人突破の5日前に7歳に成ったメビック君が一番重要とした皆の健康²²⁴⁾も容易ではない。

第3千年紀の初頭に米国が破天荒の本土への襲撃を受けた直後の2001年11月30日、ゴールドマン・サックスの^{エコノミスト}経済学者に由る投資家向け報告書 *Building Better Global Economic BRICs* を発表した。より好く^{グローバル}全地球経済に寄与するBRICsの建設の目標提起が新興4国の略称の初出と成ったが、中国建国54周年の03年10月1日の同社発報告書 *Dreaming With BRICs: The Path to 2050* は、世紀央（「年央」^{なぞら}）に擬えた造語）の繁栄へ向ってBRICsと共に

歩む夢を描いている。イラク戦後の世界力学の均衡変化期で声価を劇的に高めた歴史的な文献であるが、「全ての道は羅馬に通じる」(All roads lead to Roma)の大路・街道(road)と違う小路・細道(path)が意味深長だ。roadが含む人生・冒険・進取等の象徴的な意味をpathから求めるなら、21世紀の人類発展の紆余曲折や20世紀の最強大国の先細りが感じ取れる。振り返って観れば、ジョンソン大統領の下で盛大に祝った2億人突破に対して3億人目の場合は目立った行事が無かったが、37秒毎に移民が1人増える時世の中で11月の中間選挙で不法移民が争点に成っている事も影響した²²⁵⁾。

米国の多民族の垣根めく様態や^{アイデンティティ}帰属意識の複雑さを浮き彫りにした符号の連続出現が興味深い。13億人目の中国国民の文化的な象徴性として名前に隠れた価値観・美意識も見所である。「張亦弛」は明らかに『礼記』の「一張一弛、文武之道也」に因んだが、張り^{テン}と緩めを使い分けた文王・武王の政道は働きと休みの両立の勧めに好く使われ、「一弛」と同音(yichi)・同義の「亦弛」は自然体の発想として「ゆとり世代」に似合う。女子なら「雨柔」と名付ける予定であった²²⁶⁾ 処も、21世紀初頭に台頭した「小資産階級情調」(小ブルジョア階級趣味)の匂いがする。時下の中国人男性の氏名に最も多いのは「張偉」²²⁷⁾であり、それほど「張」姓の者が多く偉人志向が強いが、「張亦弛/雨柔」は「旭」の躍動・向上と反対に張力・剛性が抜けている。「中控」制御で選定された2人の大台の符号が豊かさや強さに欠けたのは皮肉とも思えるが、首都中心の仕組みに対する上海発の疑念の持ち主も、巡り巡って外資系勤務の「白領(ホワイト・カラー)階層」であった。子供の付加価値を海南の製品の^{イメージ・キャラクター}「形象大使」(「形象代言人」の類義語)の形で売り出した親の^{ビジネス}商売感覚は、東南・華南沿海地域の拜金主義に染まりつつある北京の変貌・変質を物語っている。

その「与时俱进」とは裏腹に、米・露の様な国内の標準時間帯の地域区分を設けず北京時間で全国を統一させた中心統合は続けて止まない。標準時間の概念の無かった中国の封建社会では、朝廷の所在地(厳密に言えば天文・暦法を司る欽天監の観測点)が暦・時の基点であったが、民国元年に中央気象局(北京)に由る制定で、崑崙・新藏・隴蜀・中原・長白(其々東経82.3度、90度、105度、120度、127.3度を基準とする)5時区が出来た。国民党政権が移転した台湾の台北時間は相変わらず「中原標準時間」と言い、2007年1月12日から中国広播(放送)会社の時報で「現在時間」と改めた²²⁸⁾ものの、本土と似た「中心統合情結」の潜在的な願望が見え隠れする。興味深い事に、内政部標準時間会議で5時区が改めて批准された1939年にも、長白・中原時区の東北・華北-東部沿海地域は国民党政権の支配下に無かった。

中国の残りの約半分をも占領しようとした日本の野望は、隴(陝西)蜀(四川)時区の名称と成る南北2省に中枢を置く国・共両党の抵抗で遂に潰^{つい}えた。隴の地を得た後漢の光武帝が更に蜀を手に入れたいと願った故事から、人間の欲に限りが無い事に譬える成語の「得隴望蜀」が生まれたが、興味深い事に、旧日本軍は中国語でも「心臓」と同音(xinzang)の新藏(新疆・

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏

西藏）まで辿り着くまでもなく、隴・蜀に対しても「可望而不可得」（眺望・待望は出来ても獲得できない）に止まった。一方、隴を得た共産党は到頭望み通り長白から崑崙までの広大な国土を掌中に収めたが、中原・蜀・新藏も含む本土を制した後の周恩来の提案に由る北京時間への全国統一は、絶対集権の王朝の「帝国の表徴」の復権の匂いを漂わせる。12, 13, 14 億人目の国民の誕生は其々第3, 第4, 第5 世代指導部の任期中に当るが、次回の2010 年代半ばの100 年前には袁世凱の帝政復活の宣言・実施・撤回（1915 年12 月12 日-16 年3 月22 日）や、軍閥・張勳（江西人）に由る廢帝復位（1917 年7 月1 日-12 日）が有り、強権独裁の再来への抵抗も新文化運動・「5.4 運動」の起爆に繋がった。その新潮の理想として掲げられた民主・科学の精神は今に成って漸く定着に向いつつあるが、今度も高水準と符号価値を誇る北京産婦人科病院²²⁹⁾ で生まれる可能性は、意識の変革に伴って薄れて行く公算が高いものの、首都を同心円の中心とする固定観念や「首領は北京から生まれる」傾向は寧ろ強く成ろう。

2011 年3 月初め、米国の『国家地理』誌が発表した1 枚の合成顔写真が話題を呼んだ。世界の約70 億人の容貌の特徴を最も代表すると言うそれは28 歳の中国漢族男性で、中国社会科学院が提供した過去10 年間の20 万人余りの中国人の画像に基づき、其々100 万人の共通な特徴を表す7000 枚の極微小な図から成っている。人類の「顔」の縮図とされた理由は中国の人口が世界で最多の19% を占め、人類の約13% が漢民族の中国語を使い第2 位に並ぶスペイン語・英語の約5% より多いことだ。20 年後は世界の最も典型的な顔は比率が首位に上昇している印度に成るだろうとも言う²³⁰⁾ が、この基準では中国人は既に千年以上も「地球村」の首位代表を成して来し、印度の特定な言語の使用人口が漢民族の中国語母語話者を超える日は当分無いので、中国の「帝国の表徴」の重みは相対的に下がっても依然として健在であるであろう。70 億人の大台に乗る見込みの年の世界の平均年齢である28 歳は、巡り巡って毛沢東の「28 画生」と建党→建国の28 年と偶然に一致し、28 の倍数は漢族が主体を成す「中華大家庭」の民族総数と同じだが、中国の首都や政治文化の基本線・中軸線が不易であり続けるなら、「毛沢東情結」と「北京情結」は時間の風化に関わらず相乗して行こう。

党首・首都の求心力を成す「情結」^{コンプレックス}の再認識から「3 縁政治」の試掘へ

以下は、建国後歴代の党中央指導部及び執行部（政治局及び常務委員会）の全構成員の出身地（含む原籍）・出身校・勤務地を詳細に分析し、各地が占める比率や順位から地域の重みを推し量り、個人・集団の気質・指向性の変化や、時代精神の変容・推移を読み解く予定であるが、紙幅の関係で別途展開したい。

本稿では、四半世紀毎の区切りで20 世紀の中国の変容を振り返って、期間内の第3 期と重なる毛沢東時代に強化された領袖・首都の支配力・求心力を分析し、後も綿々と続いている朝

野の毛・北京への「情結」の根強さの様相と本質を指摘し、封建社会から「社会主義の初級段階」に貫かれる政治文化の伝統を掘り下げた。

続篇の「“北閥”の台頭と“北伐”の足音——新千年の第1四半世紀の中国の“地縁・史縁・人縁”政治の勢力図更新と権力構造の地殻変動」に譲る論考では、「3縁政治」（本稿筆者の造語）の北方型と南方型の異同・交錯，政治の中心・北京と経済の中心・上海の競合・共栄，毛・鄧・江・胡と次世代指導部の治世の力点・傾向の推移を探求したい。

注釈

- 152) 毛沢東が「延安の文芸座談会に於ける講話」（1942）で言及したこの6文字は、画数が少ない故に、昔の一部の国語教科書では第1冊の最初の数課に出された。
- 153) 陳晋『独領風騷——毛沢東心路解説』，147頁。
- 154) 逢先知「博覧群書の革命家——毛沢東読書生活我見我聞」，龔育之・逢先知・石仲泉『毛沢東的読書生活』（生活・読書・新知三聯書店，1986年。2010年版，3頁）；中国国家図書館ウェブサイト「中外名家与図書館」。
- 155) 米国中央情報局北京事務所長として当時^{ビザ}入国査証発行に関わったジェームズ・R・リリー（1989－91年に駐中国大使）は、鄧の大出世を予感した。（『チャイナハンズ』[2004]，日本語版〔西倉一喜訳，草思社，2006年〕，182頁）
- 156) 中川一徳『メディアの支配者』，講談社，2005年，上巻57－58頁。
- 157) 小淵恵三の屈折的な自己顕示欲と寅次郎（映画『男はつらいよ』の主演）への傾倒は、佐野眞一『凡宰伝』（文芸春秋，2000年）に詳しい。
- 158) 葉永烈『「四人幫」興亡』，下巻1212頁。
- 159) 1997年党大会の後にその事を否認無しに意識した江沢民は、清華大学の教職員・学生との座談会で「上海の指導者は皆清華閥だよ」と口を滑らせた。慌てて「今のは冗談だけど」と付け加えたが、一瞬の本心を窺わせる逸話と言える。（祁英力著・おうちすえたけ編訳『胡錦涛体制の挑戦』，勉強出版，2003年，158頁）
- 160) 藍英年「滄沱河之歌」（傅国涌編『過去の中国』[長江文芸出版社，2006年]所収）；葉永烈『「四人幫」興亡』，下巻1212頁。「百度百科 北京101中学」の「著名校友」一覧には、劉少奇の息子も毛遠新も入っていない。
- 161) 舒雲「十大元帥不同的葬礼」，『党史博覽』月刊2007年第12期。
- 162) 林の秘書（1966－70）の回想にも、夫人・葉群が面と向って「101」と呼ぶ習慣が書いてある。（張雲生『毛家灣紀実 林彪秘書回憶録』10頁，日本語版23頁）
- 163) 馮立忠「我所知道的8341部隊」，『党史縱横』（中共遼寧省委員会党史研究室主管，月刊）2005年第12期。
- 164) 「神奇故事：毛沢東活83年執政41載和神秘数字8341」，中国台湾網2008年11月7日（人民網より転載）。
- 165) 權延赤『走下神壇的毛沢東』，中外文化出版公司，1989年，3－5頁。
- 166) 原非・張慶編著『毛沢東入主中南海前後』，284－288頁。
- 167) 「美盧」と「盧林1号」の由来，概況及び毛の利用状況は，蘇曉康・羅時叙・陳政『“烏托邦”祭——

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

- 一九五九年廬山之夏』（中国新聞出版社、1988年。日本語版＝辻康吾監修『廬山会議——中国の運命を定めた日』、毎日新聞社、1992年）に詳しい。
- 168) 郭金栄「走進毛沢東の最後歲月」, 中共党史出版社, 2009年, 139-141頁。
- 169) 中共中央文献研究室編, 逢先知・金沖及主編『毛沢東伝(1949-1976)』, 汪東興『毛沢東与林彪反党集团的闘争』(当代中国出版社, 1997年)等に詳しい。
- 170) 王潔「第12個小公民」, 『人民日報』1995年2月15日。
- 171) 「内地第13億名公民降生 30年後中国人口達極限」, 『京華時報』2005年1月6日。一方, 2005年1月6日中国新聞網電(北京)の題は, 語弊の有る「中国第13億個公民今日在北京婦産医院誕生」と成る。「第十三億個小公民誕生 我国13億人口日推遲4年到来」(『人民日報』2005年1月6日)では, 「我国大陸総人口」の表現を使っており, 1989, 95年の大台突破日の統計基準との整合性を思わせる。
- 172) 復華「老百姓:不可思議 第13億個公民為何誕生在北京?」, 新華網, 2005年1月10日。
- 173) 百度網「百度知道 中国每天有数人出生」等。因みに, 米国では国勢調査局の調査に拠ると, 10秒に1人の割合で人口が増加し, 子供は7秒に1人生まれている。「米, 人口3億到達 移民流入や高い出生率 39年で1億人増加」, 『日本経済新聞』2006年10月18日)
- 174) 同注172。
- 175) 同注172。
- 176) 同注170。
- 177) 「関注中国13億人口日:回訪兩個小男孩的家庭」, 『新京報』2005年1月7日。報道の中で2月14日出生と記したのは誤りで, 母親が振り返った病室入りの時点と混同したらしい(前日の『京華時報』の報道[注170文献]では, 母親は15日と語った)。母の仕事は食事作りという本人談から, 炊事係かと推測される。
- 178) 楊中美『朱鎔基伝』([台湾]時報文化出版社)等。
- 179) 同注170。
- 180) 「内地第13億名公民降生 30年後中国人口達極限」, 『京華時報』2005年1月6日。
- 181) 同注169文献や「第十三億個小公民誕生 我国13億人口日推遲4年到来」(『人民日報』2005年1月6日)では, 「空勤」とした。「空警」説は中国新聞網同日電(北京)「中国第13億個公民在北京婦産科医院誕生」(情報源は人民網電, 『京華日報』報道)等に有った。
- 182) 「我国第13億公民成搖錢金童 出生就成代言人」, 中国新聞網電(北京), 2005年1月13日。
- 183) 「米マスコミ, 3億人目の赤ちゃん探しに躍起」, ロイター通信電(華盛頓), 2006年10月18日。
- 184) 「米国の人口 2億を突破」, 『毎日新聞』1967年11月21日夕刊。
- 185) Wuで表記する中国人の姓は「呉」の他に「鄒」も有り, 周恩来が逝去の5日前に全身の力を振り絞って「釣魚台のWu……」を呼びたいと言った。側近はその国賓館の警備責任者・鄒吉成(中央警備団副団長)と理解して呼び付けたが, 到着後に周は昏睡に陥っていた。(鄒吉成・王凡『紅色警備』, 中国青年出版社, 2009年, 284-286頁)ところが逝去の前日に, 釣魚台国賓館の呉家安副料理長が作る「獅子頭」(特大の挽肉団子)が食べたいと言い出した(劉一達『凭市臨風』[中国社会出版社, 1998年], 産経新聞外信部編『食の政治学』[産経新聞出版, 2005年])ので, 前出のWuも珍しい姓の「鄒」ではなかった可能性が有る。
- 186) 「第十三億個小公民誕生 我国13億人口日推遲4年到来」, 『人民日報』2005年1月6日。
- 187) 漆原次郎「世界人口, 60億を超える“サラエボ大学病院”——sei-tech世界地図(4)」, 科学技術のアネクドット(sei-tech.jugem.jp)2007年8月27日。

- 188) 「世界の人口 60 億人突破」, http://news.bbc.co.uk/hi/english/world/newsid_471000/471908.stm, 1999 年 10 月 12 日。
- 189) トーマス・フリードマン *THE LEXUS AND THE OLIVE TREE: Understanding Globalization* (1999), 日本語版 (東江一紀・服部清美訳『レクサスとオリーブの木——グローバリゼーションの正体』, 草思社, 2000 年) 下巻 8-16 頁。
- 190) 「戦火の傷跡はどこまでも続く (サラエボ〜ドブロブニク)」, 「たるの旅日記」 (www.geocities.jp/taruyafufu), 2002 年 12 月 4 日 (当日, 旅先で日本大使館の者から聞いた話として記述)。
- 191) 『広辞苑』の「オリーブ」の語釈が言うには, 「枝はヨーロッパでは平和と充実の象徴。古くホルトの樹と称。“橄欖”と訳すことがあるが, 別種。」小学館『日本国語大辞典』第 2 版第 3 巻 (2001 年) の説明は, 「葉は平和や実りのシンボルとして装飾用に用いられ, また図案などに表わされる。橄欖 (かんらん) とするのは誤称。」小学館『日本大百科事典』第 4 巻 (1985 年) の「オリーブ」の項でも, 「全く別種」の「橄欖」とするのを「誤訳」と断じた。中国語ではオリーブは「橄欖」と区別して「油橄欖」と言うが, 西洋で平和の象徴とされるオリーブの枝は「橄欖枝」と訳され, ラグビーボールは楕円形が橄欖の実 (別称「青果」) に似ている処から「橄欖球」と称する。
- 192) 大和出版より刊行。1993 年新潮文庫版では副題は削除された。
- 193) 英国の男性避妊具大手のデュレックス社が 2007 年に世界主要 26 ヶ国・地域で性生活を調査した結果, 最少と成る日本の年間 48 回は 1 位の希臘 (164 回), 8 位の中国 (122 回) 等を遙かに下回り, 25 位の香港 (82 回) にも遠く及ばず「性弱国」ぶりが突出した。(「大研究 日本人のセックス 日本人はなぜ SEX をしなくなったのか 世界最下位, しない夫婦が 37 パーセント」, 『週刊現代』2009 年 11 月 28 日号, 175 頁)
- 194) 「世界人口 60 億突破, 今世紀初頭の 4 倍に」, 『毎日新聞』1999 年 10 月 12 日夕刊。「国連公認 60 人目 サラエボで誕生」, 『朝日新聞』同 13 日。
- 195) 「(新) ボスニアのかけら 選ばれたのには訳がある! ~ 50 億人目 & 60 億人目のベビー ~」, bhkakeramico.blog57.fc2.com/?mode=m&no=284, 2009 年 10 月 25 日。
- 196) 「アイスランドからビッグマックが消える——金融危機の余波で利益圧迫」, [英国] 『フィナンシャル・タイムズ』紙 2009 年 10 月 27 日, JBpress (日本ビジネスプレス) 同 28 日。
- 197) 「明日朝 8 時 人類 50 億人」(『朝日新聞』1987 年 7 月 11 日夕刊), 「“50 億人目の赤ちゃん” 国連が認定 11 日午後 3 時 35 分ユーゴで誕生, マテイちゃん」(『毎日新聞』1987 年 7 月 12 日), 「50 億人地球号の“時限爆弾” 世界人口 このアンバランス 出産奨励, 必死の欧州」(『朝日新聞』1987 年 7 月 12 日)。
- 198) 中国社会科学院・清華大学国情研究中心編, 胡鞍鋼主編『地域与発展: 西部開発新戦略』, 中国計劃出版社, 2001 年, 16-17 頁。
- 199) スロベニアの 1 人当たり GDP は 1999 年に 10076^{ドル}に達し, 同年の 1 人当たり国民総所得 (GNI) は恰度 1 万^{ドル}。(『財団法人』矢野恒太記念館編集・発行『世界国勢図会』第 12 版 [2001 / 02, 2001], 出所は 1 人当たり GDP = 世界銀行, 1 人当たり GNI = 国連のデータベース)
- 200) 「各国のマクドナルドのオープン年次」, ジェームズ・ワトソン編 *GOLDEN ARCHES EAST McDonald's in East Asia* (1997), 日本語版 (前川啓治・竹内恵行・岡部曜子訳『マクドナルドはグローバルか 東アジアのファーストフード』, 新曜社, 2003 年) 38 頁。
- 201) クロアチアの 1 人当たり GNI は 2006 年に 1 万^{ドル}突破 (10684^{ドル}) と成ったが, 同年の 1 人当たり GDP

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（下）（夏）

- は 9665^{ドル}。、『世界国勢図会』第 19 版 [2008/09, 2008], 20 版 [2009/10, 2009])
- 202) ダニエル・ドーリング/マーク・ニューマン/アンナ・バーフォード *THE ATLAS OF REAL WORLD Mapping the Way We Live* (2008), 日本版 (猪口孝監修『世界の中の日本がわかる グローバル統計地図』, 東洋書林, 2009 年) 176 頁。
- 203) 同上, 175 頁。
- 204) 同上, 93 頁。出所はマクドナルド社「各国の店舗数」(2006 年)。
- 205) 「杜少府之任蜀府」(杜少府, 任に蜀府に之く) と題する五言律詩, 蘅塘退士編・目加田誠訳注『唐詩三百首 2』(平凡社, 1975 年), 8 頁。
- 206) 発案者と提起時期に就いて複数の説が有り, 本稿の根拠は「極なき時代 マネー漂流 米集中に変調の兆し」(『日本経済新聞』2011 年 2 月 2 日, 特集「不均衡な世界」第 1 部「成長と停滞と」上)。
- 207) 本稿筆者は「“文革”後の中国文学と日本の戦後文学——相互参照の試み」(岩波書店『文学』1989 年第 3 号)の中で, 中国の「文革」後文学 (1978-86) と日本の戦後文学 (1945-55) の類似の現象・問題を系統的に比較したが, 其々の「第 1 の波」「第 2 の波」「第 3 の波」を対照する視座の前提として次の対応関係を指摘した。「両者の時間のずれ (31 年) は, 明治維新 (1868) と“百日維新” (1898), 日, 中近代文学の発端である『浮雲』(二葉亭四迷, 1887) と『狂人日記』(魯迅, 1918) の時差, そして, それ以降の両国の社会や文学の発展における 30 年ほどの落差とほぼ一致しており, そこから共時的パラダイムが成立する。」(38 頁) 更に 2 つの論考対象の年表 (59-63 頁) で, 其々 '76 年と '45 年を「原点」とし, '77-'86 年と '46-'55 年を「1 年目」……「10 年目」とし, 各々動きを時系列で示し且つ同列に並べた。

上記引用文の中の明治維新の年代は言うまでもなく 1868 の誤植で, 筆者・編集部・印刷所の 3 方とも見落としたこの瑕疵の他にも, 「悔其少作」(其の若い頃の作品を後悔する) という文筆家の人情の常の通り反省点が幾つか有る。例えば, 題名は「中国の“文革”後文学と日本の戦後文学」とした方が, 「文革」を形容する「浩劫」(大災禍) に因んだ筆者独創の「劫後文学」の名称に相応しい。或いは, 前者の範囲は「傷痕文学」の代表作・『傷痕』(盧新華) の発表年 (1978) に拘らず, 後者と対応する年表の通り「文革」終結の 1976 年からの 10 年間にすれば, 整合性も取れるし 1966-76 年の「10 年浩劫」とも対照に成る。更に, 明治初期・清朝末期からの両国社会の発展の時間差の 30 年程度の説も, 筆者が後の論説で展開した様に約 30-40 年と言う方がより実態に合う。

将来の業績集成に備えて訂正・修正の意向を此处に書き留めて置くが, 90 年代以降の日本の言説空間で現れ今もはや常識化した両国間の 30-40 年程の発展の時間差を, 経済等から遠く離れた比較文学の研究分野からではあるが逸早く提起した, という事の意義には相変らず自負を持っており, 且つ「自負」の字面に似合う様に当該現象の一層の立証・解明の責務を自ら負って行きたい考えである。

- 208) 聖バレンタインの記念日が日本で 1958 年頃から流行したとは, 『広辞苑』の「バレンタイン・デー」の説明にも記された定説である。中国では「情人節」(バレンタイン) は今や「^{クリスマス}聖誕節」(降誕節) に次いで, 2 番目に市民権が普及する「洋節」(西洋 [伝来] の祝祭日) と成っている (舎禾「西方聖誕節 PK 中国新春節?」[『麦種』[基督教関係者が 2006 年に創刊した季刊誌] 第 4 期, 同年] に拠ると, 武漢の某大学の社团 [学生団体] が大学生を対象に行なった祝祭日意識調査の結果, 知っている西洋 [伝来] の祝祭日の 1 位は「^{クリスマス}聖誕節」[96.8%], 2 位が「情人節」[91.6%] で, 次の「母親節」[母の日] も 86.7% と比率が高い。因みに 4 位 [70.3%] は「^{エイプリルフール}愚人節」[四月馬鹿] だが, 改革・開放後の中国本土に入った時期は考証困難で, 80 年代前半の「^{クリスマス}聖誕節」の上陸に続く同後半の事が思われる。

東京五輪と北京五輪の 44 年の時間差に当て嵌まれば, 日本で流行し始めた 43 年後の 2001 年の 2 月

- 14日の中国新聞社の報道に拠ると、同社の無作為電話調査に応じた北京・上海・広州の15-44歳の市民には、54.6%の人が物を買って「情人節」に他者に贈る心算だった。（「調査顯示：中国城市青年歓度情人節不够浪漫」）中国の「後來居上」（後の者が前の者を追いつく）を物語る様に、更に5年後の上海では3.5万元（約51.4万円）もする「情人節」贈り物が発注され、999本の黒い薔薇（輸入品）で束ねたその「花球」（花球）の「天価」（天[極限]に届くような/破天荒の超高価）は世間を瞠目させた。（劉元旭・張建松「拿什么来愛你，傳統節日」、『文匯報』2006年2月12日）
- 209) 1921年の中共第1回党大会の開催時期に就いて、時間の経過及び陰曆の混在の所為で出席者の記憶は10数年後には完全に曖昧に成った。創設17周年を祝う為に確定を要請された毛沢東・董必武は止むを得ず、便宜的に7月の初日を建党記念日に定めた。毛が実質的な党首を務めた時期と同じ41年半経った後、『中国社会科学』1980年第1期に掲載された邵維正の論文「中国共産党第一次全国代表大会召開日期和出席人数的考証」に由って、7月23日に開幕し31日に閉会したことが断定された。（葉永烈『紅色的起点』、207-211頁）但し、「7.1」を党の「誕生日」とする慣習に対しては、实事求是の原則に則る是正は未だに成されておらず、判明から奇しくも同じ41年半後の建党100周年の際にも前例は踏襲されるだろう。
- 210) 内島嗣雅「マックがロシアにできた日」、『SANKEI EXPRESS』2010年2月8日。
- 211) 蔣彦鑫「北京人均GDP破10000美元」、『新京報』2010年1月22日。その10070ドルが世界銀行の基準に拠る計算かどうかは未詳である。
- 212) 1970年12月18日、エドガー・スノーとの談話。「毛主席会見美国友好人士斯諾談話紀要（經毛主席審閱）」の中のこの件は、中共中央文献研究室編、逢先知・金沖及主編『毛沢東伝（1949-1976）』下巻1585頁に載っている。
- 213) 『ニクソン回顧録』（1978）日本語版、第1巻『栄光の日々』（松尾文夫・斎田一路訳、小学館、同年）、349頁。
- 214) 原非・張慶編著『毛沢東入主中南海前後』、313頁。
- 215) 権延赤『走下神壇の毛沢東』、3-5頁。
- 216) 苗体君・竇春芳「鮮為人知的中共一大前入党的三位黨員」、『党史縱横』（中共遼寧省委党史研究室、月刊）2009年第8期。
- 217) 国際連合人口部、当年7月1日現在の推計人口。
- 218) 李亞傑・衛敏麗「截至2007年6月全国中共黨員總数已達7336.3万名」、新華網2007年10月8日。
- 219) 『読売新聞』2005年8月15日特集記事「“改革”を問う 05衆院選 日本経済 戦後60年 官民一体 繁栄と挫折」に拠ると、UFJ総合研究所主席研究員・鈴木明彦に曰く、「どんな優れた経済モデルも30年もすれば限界が見え始め、60年も経てば転換が必要に成る。/日本経済は今年の干支でもある乙酉の年を大きな節目にして来た。」120年前の乙酉、伊藤博文が初代の内閣総理大臣に就任してからの60年は、戦争を繰り返して富国強兵に突き進んだ「国家の時代」で、終戦からの60年は企業の成長が最優先された「企業の時代」だったとし、今後60年は国家でもなく企業でもなく、個人が経済の主役に成る「個人の時代」に成ると予想した。
- 220) 本稿筆者は「以“文温”輔“経熱”，融“政冷”：増進中日相互理解的治本之路」（『立命館国際研究』20巻3号、2008）で、日本軍の空襲で深刻な被害を受けたことの有る重慶と誤記した（78頁）が、此処に訂正して置く。
- 221) 第16期党中央委員会第4回総会（2004年9月）で、「和諧社会」（調和が取れた社会）の構築を目指す方針が打ち出された。翌年4月の亜細亜・アフリカ首脳会議（ジャカルタ）で、胡錦濤が「和諧世界」

の建設を提言した。

- 222) 「バルカン半島 混乱再発リスク上昇」, 『Fuji Sankei Business i.』2009年11月3日。
- 223) 同注195。
- 224) 同注187。
- 225) 「米、人口3億到達 移民流入や高い出生率 39年で1億人増加」, 『日本経済新聞』2006年10月18日。
- 226) 「内地第13億名公民降生 30年後中国人口達極限」, 『京華時報』2005年1月6日。出産前の父親の話では、男の子なら「亦弛」と名付ける予定で、「小名」（幼名。注50参照）は男が「十三少」（13億人目の少年の意か）、女が「十三姨」（「姨」[おば]は「億」と同音のyi, 13億人目の女性の意か）と考えていた。
- 227) 「中国重名最多50公布 “張偉”居首近30万人」, 新民網2007年7月25日（情報源=中国姓氏權威ブログ, 公安部全国公民身分番号問い合わせサービス^{センター}中心に確認済み）。
- 228) 『維基百科, 自由的百科全書』, 「中国時区」。
- 229) 北京市産婦人科病院が13億人目誕生の場所選ばれたのは、毎日20名に達する分娩の量が大きく精密な計算に向いている事が有る。医療技術・設備の対応力が優れた当病院は全国産婦人科の代表である故に、この選択は特別な意義を持つ、と国家人口・計画生育委員会の席小平司長（局長）が語った。（「内地第13億名公民降生 30年後中国人口達極限」, 『京華時報』2005年1月6日）但し、1日20名は平均して1時間強に1人なので、恰度0時過ぎの出産の確率は高いとは言えない。
- 230) 「世界第一大衆臉：28歳漢族男」, 中央社台北2011年3月3日电。

（夏 剛, 立命館大学国際関係学部教授）

“毛泽东情结”与“北京情结” ——当代中国政治文化的根基、枢轴之一（下）

1995、2005 年第 12 亿、13 亿个中国本土小公民均在北京妇产医院呱呱坠地，与第 50 亿、60 亿个“地球村居民”1987、1999 年同降生于南斯拉夫社会主义联邦共和国解体前后的域内、旧地相对比，可体味到树立象征性亮点以凝聚国民归属意识的“控中”（统治中国）手法之真髓。从习近平等人的足迹还可推断第 5 代顶层政要的宿命——诞生、就学、就业、升迁、定居乃至辞世的全部或大部在首都的几率高。

通过进一步理解构成党魁、首都的求心力的根深蒂固的情结，本文续篇将继而展望中国 21 世纪第 1 个 1/4 世纪的“地缘、史缘、人缘”政治的走向。

（夏 刚，立命馆大学国际关系学院教授）